

第2章

保育・教育課程

1 保育・教育課程の見方

第2章の保育・教育課程では、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導方法を例示しました。

本保育・教育課程のフォーマットの見方については、次の吹き出しの通りです。

5歳児 I期 (4月~5月)		
ねらい ・新しい環境に自分からかかわり、いろいろな遊びに取り組む。…略…		
学びの芽生え	思考	・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を…
	言葉	・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉…
	創造	・体で感じたりリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと…
人とかかわり	協同	・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさ…
	信頼	・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。…
	規範	・新しい生活の中でのきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒に…
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。…
	運動	・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさや…

・各時期の子供の発達を踏まえた成長の実現に向けたねらいを示しています。

・生きる力の基礎を育成する観点から、各時期に子供に確実に経験させたい内容を示しています。
※0歳児については、発達の過程を示しています。

・各時期の具体的な指導例を示しています。
うち、◇印の付いている指導例は、実際の指導の詳細を示しています。

<指導例>
◇ 年長さんになったよ 進級の喜びを味わう。

<援助のポイント>

<家庭との連携>

・保育者の援助や家庭との連携のポイントを示しています。

・生きる力の基礎を育成する観点から、子供に確実に経験させたい内容の視点に基づき、生活や遊びの中で子供が経験している内容を示しています。

「年長さんになったよ」
5歳児 4月
進級の喜びを味わう

環境の構成

- 生活の場を自分たちで整えていけるような機会の設定や物の準備をする。
- 幼稚園でのルール（遊具や用具の扱い方など）の確認、積木や製作コーナーの置き場所を決めること、自分たちでできると考えたこと（飼育動物の世話、昼食時の挨拶、昼食後の保育室の掃除など）に取り組む時間を設ける。
- 必要な用具などを見えやすい所に置いておく。
- 年下の子供の気持ちを考えたり自分たちの経験を振り返ったりして、自分ができることを考え、実際に接する機会を設ける。（朝の支度や遊びの片付けの手伝い、園内巡りなど）

子供の姿

「もう、年長だもん」
保育者が「うさぎの世話をしたよかな」とつぶやくと近くにいる子供が「手伝ってあげようか」「私もやりたい」と言ってくる。「できるかな」と保育者が問いかけると「前年度の年長さんに頼まれたからね。もう年長だもん」と張り切って取り組む。「私もやらせて」とその様子を見て取り組む子供が増えていく。また、「こうやるんだよ」と友達同士で確認したり教え合ったりする様子が見られる。

「年少さん大丈夫かな」
登園後不安で泣き続けている子供の様子を見守りながら見守っていた年長児がそばに近寄り、「大丈夫だよ」「幼稚園、楽しいからね」と頭をなでたり、「これで話んでいようよ」と砂場の遊具を持ってきて、その子供の前に座りたりする。相手の気持ちを考えたり自分なりに言葉を掛けたり行動したりする姿が見られる。

「生活のルールをぶつこうていく」
年長児になって使えるようになった大型積木。大きくて一人で運ぶと危ないことに気付く。「二人なら運べるね」「これなら大丈夫」と二人で運ぶ。クラスでも取り上げて話したところ「二人で運ぶこと」が約束になる。遊びの中や片付けの際には「一緒に運ぼう」と友達に声を掛けて運んだり片付けたりする。

経験している内容

- ★飼育動物の動きや状態などに気付いたり親しみを感ぜたりする。
- ★文字や数字、記号などに関心をもつ。
- ▲遊具を安全に扱おうとする。

援助のポイント

- ◆ やってみたい気持ちが実現していくように環境を構成したり、約束を確認したりする
- ◆ 年長になった喜びから自分たちでやってみたいという気持ちが大きくなっているため、自分たちの生活を円滑に自信をもって進めていけるようにする。問題になったことはクラス内で取り上げ、必要感をもって話し合ったり共通理解したりしていく。自分たちで生活を進めているように当番

★学びの芽生え ●人とかかわり ▲生活習慣・運動

- 友達に声を掛けて一緒に取り組む楽しさを味わったり、力を合わせて取り組んだりしようとする。
- 年下の子供に優しくやってみようとする。
- ▲自分たちで約束をつくり出す。

- 「指導例」の詳細は、「就学前教育カリキュラム」を御覧ください。
- 「平成21・22・23年度 就学前教育プログラム及び就学前教育カリキュラム実証研究事業（3年次報告）」にも、0歳児から5歳児の実践事例が掲載されています。

0歳児(57日頃～3か月頃)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・大好きな大人からあやされたり、声を掛けられたりすることを喜ぶ。 ・保育者に欲求を受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。 ・一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻から出ていた音声が喉からも出るようになり、母音に喉子音が結び付いた発声も聞かれるようになる。 ・光(明るい光、優しい光など)に反応する。
人との かかわり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・不快感が芽生え、空腹になったりおむつが汚れたりすると、目覚めて泣く。 ・抱かれて、泣きやんだり安心した表情になったりする。 ・音や話し声のする方に顔を向けようとする。 ・あやしたり話し掛けられたりするとよく笑うようになる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。 ・よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたり、顔や手指がピクピク動いたりする。 ・舌の前後の運動で、ミルクをよく飲むようになる。 ・手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。 ・首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる。 ・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・引き起こしに頭が少しずつついてくるようになる。 ・仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合やすなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる。 ・手と手、手と口の協応ができ始める。 ・周囲の動くものを目で追う。

<援助のポイント>

- ・保育者の愛情豊かな受容によって、情緒が安定していく。担当の保育者を決めて、愛着関係を育むとともに、一人一人の生活リズムに合わせて生理的要求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。
- ・温度変化に弱く、体温の失調(発熱、低体温)や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、湿度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・病気に対する防衛機能が未発達なので衛生面に留意し、体調の小さな変化に気付くようにする。
- ・一人一人の授乳時間や間隔を把握し、おおむね3時間ごとを目安に授乳する。
- ・自分で寝返りをするようになるまでは、仰向けで寝かせ、睡眠中の窒息、突然死などの事故予防をしっかりと行う。
- ・2か月頃から腹ばい姿勢にして過ごす時期が始まる。腹ばいや寝返りの始まる時期は、特に危険なため、目を離さないようにし、下は硬い状態にする。

<家庭との連携>

- ・連絡帳のやり取りやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。
- ・家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排せつ、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。
- ・ミルクの量や授乳にかかる時間は個人差が大きいので、個々に合わせて哺乳びんの乳首のサイズなどを、保護者と確認していく。

0歳児（3か月頃～6か月頃）	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・あやされたり、声を掛けられたりすると喜び、自分でも声を出す。 ・飲む、寝る、遊ぶの安定したリズムで機嫌よく過ごす。
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。
人とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。 ・初期の人見知りが始まる。 ・自分から相手にほほえみかけるようになる。 ・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。
生活習慣・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・胃の入口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。 ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。 ・よだれが出始める。 ・果汁やスープなどの準備食を開始する。 （目安は、授乳リズムが3時間半～4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃） ・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。 ・眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別が付き始めてリズムが定まってくる。 ・体温調節は安定し始めるが、まだ、周りの温度の影響を受けやすい。 ・腹ばいにするとうで上半身を支えることから、徐々に上体を持ち上げるようになる。 ・目と手の協応が始まり、見たものに手を伸ばすようになる。 ・体の正中線上で両手を絡ませる。 ・親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる。 ・足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。 ・引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せるようになる。

<援助のポイント>

- ・必要に応じてクッションなどを用意して、腹ばいや一人座りを援助していく。
- ・着替えや沐浴、おむつ交換などで身体の健康を保ち、「快」の感覚を育てる。
- ・なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使う物は個別にし、使ったらその都度、清潔にしておく。
- ・個人差に応じて睡眠がとれるように環境を整える。
- ・優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子供の情緒の安定や人との心地よいかかわり、周囲への関心を育てていく。

<家庭との連携>

- ・昼は起きて明るい所で生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。
- ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子供の手の届くところに危険な物は置かない、子供は大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きているときには応答的にかかわる、準備食の内容やタイミングなど）を知らせ、保護者が安心して子供の動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。

0歳児（6か月頃～9か月頃）

		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の語り掛けを喜び、自分でも声を出すことを楽しむ。 ・保育者と十分にかかわり欲求を受け止めてもらい、親しみをもち安定して過ごす。 ・腹ばいや寝返り、座位など、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・いろいろな食品の味や形態、スプーンに慣れる。
ねらい	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・物を落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。 ・名前を呼ばれると振り向く。 ・引出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ。 ・言われていることをだんだんと理解できるようになってくる。 ・「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。 ・大人の口元を見てまねる。
	言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出ることを喜ぶ。 ・機嫌がよいと一人遊びをする。 ・曲に合わせて体を動かす。 ・周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする。
人との かかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・人のまねが上手になってくる。 ・同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。 ・知っている人を見ると抱いてもらいたがる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・いやいや、バイバイなどの動作をする。 ・要求があると声を上げる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・人見知りをしたり後追いをしたりする。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 ・名前を呼ばれると応じる様子がある。 ・人の動きを目で追う様子がある。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が手を添えるとコップを持って飲む。 ・椅子に座って食べる。 ・前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。 ・午前と午後、大体同じ時間に寝起きをするようになる。 ・背中を反らして手足を上げる。（グライダーポーズ）
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・うつ伏せの状態ですら爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する。（ピボットターン） ・寝返り、はいはい、お座り、つかまり立ちなど活発に動くようになる。 ・支えて立たせると足を踏ん張る。 ・指先で物をつまんだり、手を打ち合わせたりする。

<援助のポイント>

- ・安全で活動しやすい環境の中で、はう、つかまり立ちをする、座るなどを十分にできるようにする。
- ・食事に対する意欲が徐々に見られるようになってくるので、手に持てる物は持たせるようにする。また、保育者が先回りをせず、食べたい物への指差しなど子供からの要求を待ち、子供の意思や意欲が高まるようにしていく。
- ・触ったものを口に運ぶ時期なので、安全と衛生に留意しながら、十分な探索活動ができる環境を整える。
- ・遊びや生活を通して、具体的に身の回りの物の名前、動作などを語り掛けていく。
- ・人見知りや後追いをする時期である。子供が不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて子供が安心感をもてるようにする。

<家庭との連携>

- ・ピボットターンの際、爪先で蹴るという行動をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になる。また、衛生、安全面に気を付け、子供が十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食を進めるに当たり、家庭でもアレルギー反応などが無いかな確認してもらい、連携を取り合う。
- ・母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。

0歳児（9か月頃～12か月頃）	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人やものに対する興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。 ・保育者と十分にかかわって、欲求を受け止めてもらい、親しみをもちながら安定して過ごす。 ・はいはいをする、はいはいから座位になるなど、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・「いないいないばあ」をして、見えなくなった大人が出てくるのを期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。 ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 ・要求したり援助を求めたりするときに、周りの関心を引こうとして発語する。 ・容器に物を入れる、かぶせる、載せる、合わせるなどをするようになる。 ・自他を区別できるようになってくる。 ・物を布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・クレヨンを持って左右の往復運動をし、なぐり描きが始める。
人とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする。 ・相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする。 ・物を打ち合わせたり積んだりする。 ・他の子供が持っている物に手を出したり、相手に物を渡したりする。 ・いやいやをしたりバイバイをしたりする。 ・褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・大人の言葉のほとんどを理解し、要求された行動をしようとする。
生活習慣・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみで食べようとする。 ・コップを両手で持って飲む。 ・大人がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたりする。 ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的に物を投げたり置いたりする。 ・両手で物を持ち、手渡す。 ・はいはいや高ばいで階段の上り下りをする。 ・はいはいからお座りが自由にできるようになってくる。 ・臥位、座位、つかまり立ち、伝い歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。

<援助のポイント>

- ・手、指、足腰を使って探索活動を十分にできるようにする。
- ・自分の意思をもち始め自分でやりたがる時期なので、子供の主張をある程度かなえてから、大人の意図する方向に気持ちを向けていくようにする。
- ・保育者が子供の発見を言葉にしたり、物を媒介としたやり取りを行ったりする中で、子供のできた喜びを一緒に感じ、表情や言葉で伝える。
- ・散歩に出掛け、自然や生き物に触れて楽しむ機会を多くもち、子供の関心を広げていく。

<家庭との連携>

- ・つかまり立ちや伝い歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意する。
- ・そしゃく能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど、具体的な方法を知らせる。
- ・はいはいが十分ではない子供には歩かせることを急がず、はいはいの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。
- ・動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。

1歳児 I期 (4月～5月)		
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れる。 ・保育者と一緒に好きな遊びを見付ける。 ・安心して食べたり、眠ったりする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・園内や園舎の散策を保育者と一緒に楽しむ中で、春の自然に触れる。 ・身近な環境の中で探索活動を十分に楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びを十分に楽しむ。 ・自分の名前や友達の名前が分かるようになる。 ・片言が盛んになる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・要求をしぐさや簡単な言葉で表現しようとする。 ・保育者と一緒に絵本を見たり、絵を見ながら保育者の言葉のまねをしたりする。 ・保育者と一緒に歌を歌ったり、簡単な手遊びをしたりして楽しむ。
人のかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に慣れて安心して過ごす。 ・お気に入りの物(持っている物と安定する物)がある。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の物が分かるようになる。 ・保育者や同じ部屋で生活している友達に親しみの気持ちを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に甘えたり、わがまを言ったりするなど、安心して思いを出す。 ・「バイバイ」「ありがとう」などの挨拶をしぐさや言葉で行う。 ・保育者のまねをして、一緒に片付けをしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしたりする。 ・おむつが汚れたら取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 ・着替えるときに手や足を動かし、簡単な衣服を脱ごうとする。 ・昼寝が1日1回となる。 ・自由に歩くことを楽しむ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆるやかな斜面や段差を上る、下りるなどの足腰を使った運動を取り入れた遊びを楽しむ。 ・たたく、つまむ、転がすなどの指先を使った遊びを楽しむ。 ・リズムに合わせて身体を揺すったり、手足を動かしたりする。

<指導例>

◇ **好きな遊び・好きな場所**

保育室の中で安心して過ごす。

触れ合い遊びを楽しもう

「一本橋こちょこちょ」「だいこんいっぽん」など歌に合わせて保育者と一対一で触れ合いながら遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・家庭との連絡を密にし、個々の状態を把握した上で新しい環境の中で安心して過ごせるように、丁寧に対応していく。特に、食事や睡眠などが重要であることを踏まえ、生活の安定を図っていく。
- ・なるべく少人数で過ごし、担当の保育者との関係を深め、安定して遊べるようにする。食事の席、布団の場所などの生活環境はいつも一定にし、安心できるようにする。

<家庭との連携>

- ・家庭での様子（食事、睡眠、排せつ、好きな遊び）を聞き、家庭と同じように接しながら少しずつ安心して過ごせるようにする。
- ・園での様子を伝え、子供や保護者との信頼関係を深めていく。
- ・連絡帳を用いて、家での様子を伝えてもらったり、園での様子を伝えたりしていく。（通年）

1 歳児 Ⅱ期（6月～8月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋や保育者に慣れ、一人遊びを十分に楽しむ。 ・身近な物への興味や関心をもち、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に夏の遊びを楽しむ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・室内や戸外で探索活動を十分に楽しむ。 ・探索活動を通して触れたり試したり驚いたりするなど、いろいろな体験をする。 ・砂遊びや水遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な型はめやパズルをする。 ・喃語や片言で保育者とのやり取りを楽しむ。 ・絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉を繰り返して楽しむ。 ・簡単な二語文を話すことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の語り掛けや指示が分かり、行動しようとする。 ・クレヨンでぐるぐる描きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて手遊びや体操をする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者やいつも一緒に生活している友達と安心して過ごす。 ・お気に入りの物やお気に入りの場所がある。 ・“自分で”という気持ちが芽生え、やってみようとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・“自分の(物)”という気持ちをもち、伝えようとする。 ・してほしいことを動作で伝えようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に「待っててね」と言われると、少しの間、待てるようになる。 ・「おはよう」「いただきます」などの簡単な挨拶をする。 ・保育者の言葉掛けや表情で、危ないことなどに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のリズムに慣れ、落ち着いて過ごす。 ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・おむつが汚れていないときは便器に座ってみる。 ・ズボン、パンツを脱ごうとしたり、帽子をかぶろうとしたりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・靴を脱ごうとする。 ・保育者を追いかけたり、一緒に逃げたりして走ることを楽しむ。 ・斜面、階段の上り下り、トンネルくぐりなど足腰を使った遊びを楽しむ。 ・ちぎる、破く、なぐり描きなどの手や指先を使った遊びを楽しむ。

<指導例>

◇ 砂場で遊ぼう

いろいろな感触を楽しんで遊ぶ。

園庭や散歩先で小さなものを見付けよう

園庭や園周辺の小道などで、虫や草花、猫などの「小さな生き物見付け」を楽しむ。同じ場所に繰り返し行くことで、散歩の楽しさが感じられるようにする。

<援助のポイント>

- ・気温や湿度が上がる時期なので、個々の健康状態を十分に把握し、水分補給や衣服の調節をして気持ちよく過ごせるようにする。
- ・自分でやろうとする気持ちを十分に受け止め、見守ったり、励ましたりしていく。
- ・子供の発見や驚きを保育者も一緒に受け止め、共感していく。

<家庭との連携>

- ・天候や気温の変化により、体調の変化を起こしやすいので、家庭や園での様子を丁寧に伝え合う。また、感染症や食中毒などの予防について配布物等で伝え、健康について十分配慮し合う。
- ・汗をかいたり、水遊びをしたりする機会が増えて、着替えをすることが多くなるので、着替えを多く用意してもらうようにする。

1 歳児 Ⅲ期（9月～10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に触れ、興味をもつ。 ・保育者と楽しくかかわる中で、言葉を覚える。 ・全身を使った遊びや一人遊びを楽しむ。
学 び の 芽 生 え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な植物や小動物を見たり、触れたりして興味をもつ。 ・園庭や散歩先で探索活動を楽しむ中で、触れる、やってみる、驚くなど、いろいろな体験をする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦粉粘土や砂を使った遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。 ・自分の要求や思いを簡単な言葉で伝えようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を見る。 ・クレヨンでなぐり描きやぐるぐる描きなどを楽しむ。 ・手遊びや歌、体操などを保育者と一緒に楽しむ。
人 と の か か わ り	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と簡単な言葉や動作のやりとりをする。 ・思いや要求を指差しや身振りで伝えようとする。 ・園内のお兄さんやお姉さんに親しみを感じ、かかわってもらいたいことを喜ぶ。 ・保育者の声掛けで危ないことや、やってはいけないことに気付き、やめようとする。
	信頼	
	規範	
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・器に手を添え、自分で食べようとする。 ・様々な食品を食べてみようとする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせ、便器に座ってみる。 ・援助されながら、パンツやズボンなどを自分で着脱しようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・援助されながら、手洗いをする。 ・靴を自分で脱いだり、履こうとしたりする。 ・保育者と一緒に歩く、走る、よじ登る、くぐる、跳ぶ、ぶら下がるなど全身を使った遊びをする。 ・つまむ、めくる、ちぎる、引っ張る、押すなど指先を使った遊びをする。

<指導例>

◇ たんけんごっこ

全身を使って体を動かすことを楽しむ。

一緒に絵本を楽しもう

食べ物や乗り物、動物などの絵本を選び、絵本を媒介にして語り掛け、一緒に楽しむ。

<援助のポイント>

- ・全身運動が活発になるので活動の状態に配慮し、じっくりと遊べるよう安全な環境を整えていく。
- ・子供が扱いやすい様々な素材に触れる機会をつくり、素材を使う楽しさを十分に感じられるようにする。
- ・子供の思いや要求など、伝えようとしている気持ちをくみ取り、言葉に置き換えていく。
- ・自分でやりたいという気持ちを受け止めながら、一人一人に合った援助をしていく。

<家庭との連携>

- ・行事や保育参観を通して子供の姿を見てもらい、共に成長を喜び合う。また、簡単な身の回りのことを自分でしたがるようになるので、発達の特徴や保育者の接し方を伝え、家庭でも時間や気持ちに余裕をもって接してもらうようにする。
- ・季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、園や家庭での子供の様子を伝え合い、家庭での食事や睡眠に十分気を付けてもらうようにする。

1歳児 IV期（11月～12月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・要求を言葉で伝えたり、言葉を使うことを楽しんだりする。 ・保育者と一緒に模倣遊びを楽しむ。 ・全身を使って遊んだり、簡単なリズム遊びをしたりする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や小動物に触れ、親しむ。 ・積木やパズルなど身近な玩具に興味をもって遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・保育者と簡単な挨拶を試みる。 ・好きな絵本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材に触れて遊ぶ。 ・歌や手遊び、簡単なリズム遊びを楽しむ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と簡単なやり取りをしようとする。 ・保育者と一緒に見立て遊びや再現遊びをする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人や子供に関心をもつ。 ・大人や友達のやっていることをまねて遊ぶ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「待っててね」「あとでね」などの言葉掛けが分かり、行動する。 ・タオルなど自分と友達の持ち物を区別する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを正しい持ち方で持ってみたり、自分で食べようとしたりする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・パンツやズボン、靴などを自分で着脱しようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で手洗いをしようとする。 ・保育者と一緒に片付けをしようとする。 ・指先を使った遊びを繰り返す。 ・ボールを蹴ったり投げたりして、保育者と一緒に体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ おままごとをしよう

保育者とやり取りすることを楽しむ。

手遊びや歌を歌おう！

保育者が楽しく歌ったり手遊びをしたりして楽しさを知らせながら、子供と一緒に遊ぶ。

- ・手遊び「あたま、かた、ひざ、ぽん」 など
- ・身近な動物や食べ物が出てくる歌 など

<援助のポイント>

- ・物の取り合いなどで子供同士のトラブルも多くなるが、一人一人の思いを受け止めたり、同じ物を複数用意したりしながら、友達とのかかわりを育てていく。
- ・子供との会話を楽しんだり、遊びの楽しさを周囲の子供とも一緒に感じたりしていく。
- ・落ち着いて遊べるようになってきているので、じっくりと遊んでいる様子にかかわり満足感や喜びを感じられるようにする。

<家庭との連携>

- ・個人差が大きくなる時期なので、一人一人の発達に合わせた対応をすることが大切であることを知らせていく。
- ・感染症が流行する時期なので手洗いをしっかりと行い、健康状態を把握できるよう連絡を取り合う。
- ・友達への関心が芽生え、かかわって遊ぶようになってくる。物の取り合いやけんかなど、時にはぶつかり合うことも成長の表れであることを知らせていく。

1歳児 V期（1月～3月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの様々なことに興味や関心を示し、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に、興味のあることや生活経験を取り入れた簡単なおっこ遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことをしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者とのかかわりを通して言われたことの意味が分かり、その通りに行動してみる。 ・大人をまねたり、自分の好きな役になったりすることを楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や植物を見たり触れたりして、周囲の様々なことに関心をもつ。 ・したいこと、してほしいことを、しぐさや簡単な言葉で伝えようとする。 ・身の回りのことに興味や関心が広がり、「これなあに」などと聞いたり、答えてもらったりすることを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。 ・保育者と一緒に簡単な手遊びをしたり、知っている歌を口ずさんだりする。 ・音楽に合わせて体を動かし、自分なりの動きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて、音の出る手作り玩具などを鳴らして遊ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな友達ができ、そばに近寄ったり一緒にいたりする。 ・保育者や友達と簡単なおっこ遊びをする中で、友達の存在を感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったことを、何でも自分でやってみようとする。 ・友達や保育者の名前を呼び、親しみをもってかかわろうとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に促されて、生活の中の簡単なきまりや危険なことなどに気付く。 ・自分の物と人の物の違いに気付くようになり、自分の物の置き場所が分かる。 ・保育者の援助を受けながら、少しずつ納得して物の貸し借りをする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを正しい持ち方で持とうとし、最後まで自分で食べようとする。 ・保育者や友達と同じ場で、楽しく食べる。 ・手助けを受けながら簡単な衣服を自分で着脱しようとする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・体操、追いかっこ、蹴る、投げるなど、全身を使った遊びを楽しむ。 ・ボタンはめ、ひも通し、クレヨンを扱うなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・散歩や固定遊具での遊びなど、戸外で体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ 今日のごはんは何か

食べることを楽しみにしながら食事をする。

自分でできるもん

パンツやズボンを自分ではく、手洗いをするなど、保育者に声を掛けられて自分でやろうとする。

<援助のポイント>

- ・基本的な生活習慣の形成には個人差を考慮し、落ち着いた雰囲気の中で繰り返し経験させていく。また、自分でしようとする気持ちを大切にしながらさりげなく援助し、自分でできた満足感を味わえるようにする。
- ・子供の伝えたい気持ちを感じ取って言葉にしたり、状況を見て言葉を掛けたりしながらやり取りをし、会話の楽しさを伝えていく。

<家庭との連携>

- ・連絡ノートや登降園時に園での子供の活動の様子を知らせ、子供が様々な姿を見せながら成長していくことの喜びを伝え、共感していく。
- ・身の回りのことを自分でしようとする姿が見られたら、その姿を伝え、家庭でも子供の成長として受け止め、見守ってもらえるようにする。また、服や靴などは自分で着脱しやすいような物を準備してもらえるように、具体的な見本などを示して伝えていく。
- ・生活や遊びの中での言葉のやり取りをクラスだよりなどで紹介し、家庭でも簡単な会話を楽しんでもらうようにする。

2歳児 I期（4月～5月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活や環境に慣れ、安心して過ごす。 ・保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や草花に興味をもって、見たり触れたり集めたりなどする。 ・積木を並べたり、積んだりすることを楽しむ。 ・水、砂、泥など様々な素材に触れる。 ・「同じ」「大きいね」「黄色だね」など遊びの中で色や形、大きさなどに気付く。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で簡単な挨拶や返事をしたり、生活に必要な簡単な言葉を使ったりする。 ・保育者や友達の名前を覚えて呼んでみる。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かるようになる。 ・保育者に好きな絵本を読んでもらったり、知っている歌や手遊びを一緒にしたりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かして遊ぶ。 ・積木やお手玉などを乗り物や食べ物に見立てて遊んだり、人形やままごとと道具を使ったごっこ遊びをしたりする。
人とかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の場や人に慣れ、好きな玩具や遊具で遊ぶ。 ・友達のしている遊びをまねて、同じことをしようとする。 ・一人遊びを楽しみながら、保育者の仲立ちで、近くにいる友達に関心をもつ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者のそばで安心して過ごす。 ・保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。 ・「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をし、食事の区切りを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のロッカーや靴箱、自分の物の置き場所が分かる。 ・「待っててね」と言われ、少しの間、待とうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の手助けを受けながら、排せつ、着脱、昼寝などをしようとする。 ・自分の物と人の物との違いが分かる。 ・スプーンを使って一人で食べようとする。 ・同じテーブルの友達と一緒に食べることを喜ぶ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・走ったり、三輪車や滑り台などを使ったりして戸外で体を動かして遊ぶ。 ・全身を使った遊びを楽しむ。（体操、巧技台での遊びなど） ・近場への散歩を通して階段、でこぼこ道、坂道などを歩くことを楽しむ。 ・粘土、のり、クレヨン、ボタン、パズル、手遊びなど、指先を使った遊びを楽しむ。

<指導例>

◇ 新聞紙で遊ぼう

一人一人が安心感や開放感を味わい、楽しんで遊ぶ。

ここで遊びたいな

絵本、連結電車、ミニカー、ブロック、粘土、お絵描きなどから自分の好きな遊びを選び、一人で又は保育者とかわりながらゆったりと遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・一人一人の気持ちを大切に受け止めながら丁寧に対応し、信頼関係を築いていく。
- ・食事、排せつ、睡眠など安心して生活できるように保育者がゆとりをもち、ゆったりとした生活リズムと雰囲気づくりを心掛ける。
- ・「きれいになったね」「靴が履けたね」など子供のしたことやしようとしていることを言葉に表して伝え、うれしさや満足感を味わえるようにする。そこから、自らやってみようとする意欲につなげていく。

<家庭との連携>

- ・新しい環境での子供の様子を細やかに知らせ、安心してもらうとともに、保護者との信頼関係を築いていく。
- ・保育室など生活環境が変わるため、子供は心身ともに疲れやすくなり、甘えが見られることもある。子供の様子を互いに伝え合うなど、連携を密に取るようにする。

2歳児 Ⅱ期（6月～8月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・砂、水（プール、水遊び）、泥などの感触を全身で味わいながら、思い切り遊ぶ。 ・友達に関心を持ち、同じ場で過ごしたりまねしたりすることを喜ぶ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や植物に興味を持ち、保育者と一緒に気付きや発見を喜ぶ。 ・水、砂、土、泥などに触れて感触を味わい、伸び伸びと遊ぶ。 ・うれしかったことや困ったこと、印象に残ったことなどを話そうとする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに興味を持ち、「これなあに」「どうして」と盛んに質問をする。 ・絵本や紙芝居の中の簡単な言葉を繰り返し言うことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土や小麦粉粘土を使い、ちぎる、伸ばす、丸めるなど、自由に楽しむ。 ・クレヨンや絵の具で自由に描いたり遊んだりすることを楽しむ。 ・身近な物を見立てたり、好きなものになって遊んだりすることを楽しむ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のしていることに関心を持ち、同じ場で遊んだりまねたりすることを喜ぶ。 ・保育者を仲立ちとして友達とかかわって遊ぶ。 ・自分のしたいことや、してほしいことを言葉やしぐさで伝える。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達とのかかわりの中で、自分の気持ちを安心して表す。 ・保育者に対し、「～したよ」「～だから」など出来事を思い出して話すことを喜ぶ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で」と自己主張をし、何でも自分でしようとする。 ・遊んだ後に、保育者と一緒に遊具を片付けようとする。 ・自分の物、人の物の区別がつく。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の誘いで、トイレで排せつしようとする。 ・保育者のそばで、安心して眠る。 ・スプーンやフォークを使って食べたり、友達と一緒に食事をするを楽しんだりする。 ・できないところは保育者に援助されながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・歩く、走る、登る、降りるなどの行動や、段差のある場所での遊びを通して、十分に身体を動かして遊ぶ。 ・リズムに合わせて身体を動かすことを楽しむ。

<指導例>

◇ 洗濯ごっこ

水の感触を味わい、生活経験を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。

ペッタン、ペッタン、楽しいな

空き容器やスポンジ、野菜などに絵の具を付けて、スタンプング（型押し）をする。型が写ることや、形の面白さ、色のきれいさを感じ、繰り返し楽しむ。

<援助のポイント>

- ・一人一人の不安、欲求、甘えなどを丁寧に受け止めて信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。
- ・一人一人がじっくりと遊べるような環境を準備し、その子なりの遊び方を一緒に楽しみ、認めていく。
- ・自分でやろうとする気持ちを受け止めながら、必要に応じて適切な手助けをしていく。
- ・基本的な生活習慣については、個々の実態に合わせてきめ細やかな援助をし、自分でできた喜びや満足感を持ち、気持ちよく過ごせるようにする。

<家庭との連携>

- ・子供が何でも自分でやりたがり、盛んに自己主張をするため、保護者が子育てに戸惑いや不安を感じる時期でもある。保護者会などで保護者同士が率直な思いを出して話せるようにしたり、この年齢の発達の道筋を伝えたりして、保護者の気持ちに寄り添い、一緒に子供の育ちを見守っていく。
- ・子供が自分でできる喜びを感じられるように、着脱しやすい服や脱ぎ履きしやすい靴を準備してもらうように伝える。
- ・感染症（とびひ、結膜炎、溶連菌感染症など）について、家庭に知らせ、健康状態について連絡を密にする。

2歳児 Ⅲ期（9月～10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 身近な大人の言葉や行動をまねたり、面白いと感じたことを繰り返して遊んだりする。 保育者や友達とのかかわりの中で、自分の思いや要求を伝えようとする。 戸外で身体を十分に動かして遊んだり散歩に行ったりする中で、伸び伸びと遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な用具の名前や使い方に興味をもち、保育者と一緒に使ってみる。 木の葉や木の実を喜んで集め、それを使って遊ぶことを楽しむ。 様々な容器や袋、布、ひも、箱などを使い、一人でじっくりと繰り返し遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかった経験を自分なりの言葉で伝えようとする。 気の合う友達とおしゃべりを楽しむ。 好きな絵本や紙芝居を何度も見たり読んでもらったりする中で、興味をもった言葉や動作をまねて遊ぶことを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒に好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりして遊ぶ。 保育者と一緒に紙をのりで貼ったり、はさみで切ることを楽しんだりする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が仲立ちとなり、少人数の友達と一緒に遊ぶ。 経験したことの中で同じようなイメージをもって、見立てて遊ぶことやごっこ遊びを保育者と一緒に楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 友達との玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いなどの中で、保育者を仲立ちとして、相手の思いを知る。 簡単な手伝いを喜んでする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 保育者の言葉掛けで危険なことに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 尿意、便意を知らせ、自分からトイレに行こうとする。 こぼしたり汚したりしないで食べられることを喜ぶ。 保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 自分の物の簡単な支度や始末をする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いや「ブクブクうがい」を保育者と一緒にする。 様々な遊具や用具に触れながら、戸外で十分に身体を動かすことを楽しむ。 かけっこや追いかけっこを楽しむ。 遊びを楽しむ中で、走る、両足ジャンプをする、一本橋を渡るなど、様々な身体を動かす。 低めの固定遊具、低めに調整した巧技台などですすんで身体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ かけっこをしよう

自分なりに思い切り走る楽しさを感じる。

どんぐりを使って遊ぼう

拾ってきたどんぐりを食材に見立ててままごと遊びに使う、ペットボトルに入れて作った手作りマラカスで遊ぶなど、自然物とかかわって遊ぶ。

<援助のポイント>

- 自分の気持ちや要求を自分なりに相手に伝えようとすることを大切にす。その際、具体的に言葉を知らせたり伝えたいことを仲介したりするなど、伝えようとする気持ちを支え、伝わったうれしさを感じられるようにする。
- 個々の発達の様子を把握し、それぞれの子供が楽しめる運動遊びを工夫していく。

<家庭との連携>

- 自我の芽生えや自分でやろうとする気持ちを受け止めて経験させることで、子供が変容してきていることを具体的に伝えて成長を確認し、保護者を支えていく。
- 運動会や遠足など、行事が多くなることを伝え、子供が動きやすい靴や着替えを用意してもらうようにする。

2歳児 IV期（11月～12月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しんだり、自分の思いを自分なりの言葉で表そうとしたりする。 ・保育者や友達と一緒に、見立てたり、なりきったりして遊ぶことを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・音、色、匂い、量などに気付き、興味をもつ。 ・保育者や友達に自分のしたことや思ったことを自分なりに伝えることを喜ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しのあるやり取りや面白い言い回しのある絵本や紙芝居を見ることを喜び、自分で言ったり好きな場面を再現したりして遊ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・音楽に合わせて身体を動かすことや自分なりの表現遊びを楽しむ。 ・簡単な楽器（カスタネット、鈴、タンバリンなど）に触れ、鳴らして遊ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しみながら、ごっこ遊びをする。 ・自分の要求を自分なりに相手に伝えようとする。 ・鬼ごっこやかくれんぼなどで友達と同じ役になって遊ぶことを喜ぶ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に褒めてもらうことを喜び、頑張ろうとする。 ・自他や善悪の区別が少しずつ分かるようになる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「入れて」「貸して」など、遊びや生活に必要なことが分かり、やってみる。 ・保育者の援助を受けながら、遊びの中で順番や交代をする。 ・保育者と一緒に簡単なルールのあるゲームや遊びを楽しむ。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なものも少しずつ食べてみようとする。 ・フォークやスプーンを正しく持とうとし、食器に手を添えてこぼさずに食べようとする。 ・手や口など体が汚れたことに気付き、自分できれいにしようとする。 ・保育者と一緒に食前や排せつ後の手洗いをする。 ・保育者の援助を受けながら、「ブクブクうがい」や「ガラガラうがい」を場面に応じて行う。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意、便意を感じて、自分からトイレに行こうとする。 ・トイレトペーパーの使い方など排せつ後の始末の仕方を知る。 ・保育者と一緒に脱いだ衣服をたたんだり、片付けたりしようとする。 ・登る、押す、引っ張るなど、全身を使う運動遊びをする。 ・ボールを蹴る、投げる、転がす、受けるなどして遊ぶ。

<指導例>

◇ **がらがらどんごっこは楽しいな**
 保育者とのかかわりや言葉のやり取りの楽しさを味わう。

先生、赤ちゃんになって

保育者を赤ちゃん役（世話をする対象）にし、寝かしつけたり病院に連れて行ったりしながら、おうちの人の役になりきって遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・部屋の換気や湿度設定をこまめに行う、手洗い、うがいを促すなど、風邪の予防に努める。
- ・前開きやかぶりの服の着脱やたたむことなど、子供と一緒に身の回りのことを行いながら、できたことを保育者も共に喜び、認めていく。
- ・友達とのかかわり方を伝えながら、一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように仲介役になっていく。

<家庭との連携>

- ・保護者の育児の悩みや子育ての参考になる情報を、クラスだよりなどを介して紙面上で交流し合い、安心して楽しく子育てができる環境づくりをしていく。
- ・子供がやりやすい衣服の裏表の返し方や、園での声の掛け方を具体的に知らせ、家庭でも行えるようにする。また、自分でできたという喜びが感じられるように、家庭でも見守ったり、認めたりしてもらうように伝えていく。

2歳児 V期（1月～3月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることや経験したことなどを、保育者と一緒に自分なりに好きなように表現する。 ・保育者や気の合う友達とかかわることを喜び、ごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でし、進級を楽しみにする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・年上の子供がやっていることに興味を示し、まねてやろうとする。 ・雪、氷、霜柱など冬の自然に接し、見たり触れたりして遊ぶ。 ・少しずつ身の回りの形、大小、長短、数などに気付く。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、保育者や友達とおしゃべりを楽しんだりする。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かり、使おうとする。 ・繰り返しの言葉や楽しいやり取りの出てるお話の面白さを感じ、喜んで聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・指先を使い、合わせ折りや好きな折り方をして楽しむ。 ・保育者と一緒に、のり、はさみ、絵の具、粘土などの材料や用具を使い、作って遊ぶことを楽しむ。
人とかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達2～3人で、ごっこ遊びを楽しむ。 ・クラスの友達と一緒に、話を聞いたり手遊びや体操をしたりすることを楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と、鬼ごっこや簡単なルールのあるゲームで遊ぶことを楽しむ。 ・友達に話し掛けたり、自分の知っていることを伝えたりしてかかわることを喜ぶ。 ・保育者や友達に自分のしてほしいことを言葉で伝える。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことや大きくなったことを認められ、進級することに期待をもつ。 ・みんなの物に気付き、自分なりに、順番に使ったり分け合ったりするなど、貸し借りをしながら使おうとする。 ・生活の中でできまりがあることを知り、簡単なできまりを守ろうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・食前、排せつ後の手洗いを自分でしようとする。 ・様々な食べ物をすすんで食べようとする。 ・フォークやスプーンを使い、こぼさないように食べようとする。 ・外から帰ったときや食後は、うがいをする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意、便意を感じて自分からトイレに行き、排せつの後始末を自分でしようとする。 ・手を拭く、鼻汁をかむなど身の回りのことを自分からしようとする。 ・自分で衣服を着脱し、たたむなど始末をしようとする。 ・冬の自然に触れながら戸外で遊ぶ。 ・散歩に出掛けることを喜び、身体を十分に動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ 大きいクラスで遊んでみよう

大きくなった喜びを感じ、進級への期待をもつ。

鬼ごっこは楽しいな

簡単なルールの中で、保育者や友達と一緒に、追ったり追われたりすることや走ることを楽しむ。

<援助のポイント>

- ・気の合う友達が出てくるが一緒に遊ぶことばかりを優先せず、一人一人が思いや自分のやり方を十分に出しながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じられる場面を大切にする。
- ・ルールのある遊びでは、ルールは分かっているが受け入れられない子供もいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いがもてることを大事にする。
- ・身体を動かすことや遊具を使うことを好むようになり、力やスピードも付いてくる。安全には十分に気を付けながら様々な経験ができるようにする。
- ・身の回りのことを自分でできるようになった喜びに共感し、進級への期待につなげる。

<家庭との連携>

- ・日常の具体的な姿から一人一人の子供の成長を伝え、喜び合うことで、子供も保護者も進級への期待や安心感をもてるようにする。また、集団としての子供たちの成長や、子供同士のかかわり方など、3歳児での成長につながっていくことを伝える。
- ・進級に伴い、園と家庭の連絡方法や持ち物などが変わる場合にはあらかじめ説明をし、保護者も安心して移行できるようにする。

3歳児 I期（4月～5月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者とのかかわりを基盤にして新しい環境に慣れ、気に入った場や遊具で遊ぼうとする。 ・保育者の愛情を感じ取り、安心して生活する。 ・身の回りのことや自分でできそうなことを、保育者と一緒にいながら園での生活の仕方を知る。 	
		進級児	新入児
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい保育室での遊びや遊具に興味をもち、自分の気に入った場や遊具で繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で経験したことのある遊具で好きな遊びを楽しむ。 ・飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や「入れて」「貸して」などの遊びに必要な簡単な言葉が分かり、使ってみる。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や入園前から知っている友達と挨拶をする。 ・保育者にやりたいことを伝えようとする。 ・保育者の声掛けに答えようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと一緒に歌ったり、手遊びやリズム遊びをしたりすることを楽しむ。 ・身の回りにある物や遊具にかかわり、見立てたり、つもりになったりして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が行う手遊びや歌、リズム遊びを喜び、まねをして一緒にしようとする。 ・身近にある遊具を使って見立てたりままごとをしたりする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児クラスからの気の合う友達と一緒に遊ぶ。 ・誕生会や子供の日の集いなどの集会に参加して、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に過ごす。 ・誕生会や子供の日の集いなどの集会があることを知り、保育者と一緒に参加する。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで過ごすために必要な、知っている約束を守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで過ごすために必要な約束を知る。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の1日の生活の流れを知る。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方を知り、自分で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方や1日の流れを知る。 ・所持品の始末や身支度を保育者と一緒に行ったり、保育者の声掛けでトイレに行ったりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児のときに経験した追いかっこや固定遊具で、体を動かして遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に戸外で遊ぶことを楽しむ。

<指導例>

◇ 好きな遊具で遊ぼう

集団の中で安心して過ごせるようにする。

生活の仕方を知って、やってみよう

トイレの使い方やロッカーの使い方、荷物の置き方などを絵に描いて表示したり、手作りの紙芝居を作って見せたりして、保育者と一緒に繰り返し行う。

<援助のポイント>

- ・進級児は徐々に新しい環境に慣れて2歳児までの生活を引き継いでいけるように、新入児は自分の居場所を見付けて安定できるように、経験や生活の流れの違いを考慮して接していく。
- ・保育者は、温かい態度で一人一人に接しながら、子供が生活に慣れていけるように、手を添えたり繰り返し知らせたりして、個人差に配慮した援助を行うようにする。
- ・生活の流れを具体的に知らせ、安心して過ごせるようにする。
- ・進級児の不安や甘えを受け止め、一人一人が安心して過ごせるようにする。並行して、進級児が新入児に持ち物の場所を教える機会をつくるなど、できることを生かしながら遊びや生活の中で力を出すことで、進級した喜びにつなげていく。

<家庭との連携>

- ・進級、入園による喜びや不安を受け止め、園の様子を伝えるとともに家庭での様子を聞き、幼児も保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。
- ・幼児が自分で身の回りのことができるように、扱いやすい所持品の用意を具体的に依頼する。

3歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの環境や様々な活動に興味や関心を持ち、かかわって遊ぼうとする。 ・同じ場にいる友達と一緒にいたい友達に親しみを感じ、かかわることを楽しむ。 ・身の回りのことや自分でできることを行おうとする。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場を見つけて繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や園庭の虫や草花など、身近な自然に触れて楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と挨拶を交わしたり、思ったことを話したりする。 ・「入れて」「貸して」などの遊びに必要な言葉を使ったり、友達の言葉を聞いたりする。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。 ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるいろいろな素材にかかわり、感触を味わう、見立てる、作るなどして遊ぶ。 ・ままごとやごっこ遊びを喜び、つもりになって楽しむ。 ・歌ったり、手遊びやリズム遊び、簡単な表現遊びをしたりすることを喜ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。 ・クラスの友達と一緒に動いたり、誕生会や季節行事などの集会に参加したりして、楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で、保育者や友達に伝えようとする。 ・友達とかかわって遊ぶ中で、保育者の仲介の下、相手に自分とは違う思いがあることを感じる。 ・砂や水などで遊び、開放感を味わう。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や友達とのかかわりの中で、よいことと悪いことに気付く。 ・みんなで過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活の仕方や流れが分かり、安心して生活する。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方が分かり、自分でやろうとする。 ・汚れたりぬれたりしたら気持ちが悪いと感じ、自分で着替えようとする。 ・食事の準備や片付けの仕方が分かり、できることを自分でやってみる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出て遊ぶことを喜び、保育者と一緒に追いかけてっこをしたり、気に入った遊具で遊んだりして、体を動かすことを楽しむ。 ・みんなと一緒に体を動かす楽しさや、戸外で遊ぶ心地よさを感じる。

<指導例>

◇ 泥んこの感触を楽しもう

素材の感触や新しい遊び方に興味をもってやってみる。

プールごっこ

折りたたみプールの中に新聞紙を裂いて入れ、プールの水に見立てる。準備体操をしてプールに入ったり、水かけっこをしたりしてプールに入っているつもりで、開放感を味わいながら遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・友達への関心が出てくる時期なので、友達と一緒に動く楽しさが感じられるような活動を取り入れていく。
- ・砂や泥、水などとかかわり、開放感を味わって遊ぶことで、自分の思いを十分に出せるようにしていく。
- ・9月は、長期休業明けで生活のリズムが年度初めの頃に戻ることが予想される。保育者とのかかわりの中で個人差に配慮した援助を行い、園生活のリズムが取り戻せるようにする。

<家庭との連携>

- ・保護者が保育に参加する機会をつくり、体験を通して子供の姿を知ったり、保護者同士のかかわりを深めたりして、園の保育・教育に関心をもてるようにする。
- ・排便後の始末（トイレトペーパーの使い方や拭き方など）について具体的に知らせ、家庭と一緒に進めていく。

3・4・5歳児 夏季保育（7月下旬～8月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいことを見付けたり、夏の自然にかかわったりして、十分に遊びを楽しむ。 ・いろいろな友達とのかかわりの中で、自分の思いを表して遊ぶ。 ・夏の生活の仕方が分かり、安定して過ごす。
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・色水や石けん遊び、シャボン玉など、夏ならではの遊びを繰り返し楽しめるようにする。 ・保育者もモデルとなって一緒に遊びながら、色や泡の変化の面白さや、水を使って遊ぶ楽しさを感じさせていく。また、子供が色や泡の変化に気付いたり、色が出る草花を発見したりすることに共感し、興味や関心をもって考えたり試したりしながら、繰り返し楽しめるようにする。 ・夏に実のなる植物を自分たちで世話をすることで、生長や収穫を楽しみにできるようにする。 ・カブトムシやザリガニなど手に持って触れることのできる生き物を飼育することを通して、生き物への親しみや、興味や関心をもてるようにする。 ・カブトムシやスズムシなど夏から初秋にかけて成虫になる昆虫を飼育して親しみ、変化に気付いたり図鑑などで調べたりしながら、興味や関心、探究心をもてるようにしていく。 ・年上の子供がしている遊びを見てまねたり、年下の子供に遊びを教えたりしながら、遊びの経験を広げていけるように、互いの姿が見えるような場の工夫をする。 ・家庭や地域での経験を、遊びに取り入れて楽しめるようにする。
配慮点	<ul style="list-style-type: none"> ・登園状況により、友達関係が変わったり、様々な保育者とかがかわることが増えたりするため、子供一人一人の気持ちを受け止め、自分の思いを出しながら安定して過ごせるようにする。 ・夏の時期にも、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じることができるよう活動を取り入れていく。 ・一緒に生活する中で、様々な友達との自然な交流を見守るとともに、時には保育者が一緒にかかわりながら、遊びのルールや考え方の調整をし、異年齢で遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。 ・異年齢の子供同士がかがかわることを、今までとは違う相手へのかかわり方を学んだり、年上の子供への憧れを育んだりする機会と捉えて援助する。
生活習慣・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の視診を丁寧に行い、健康面に留意する。 ・暑さのために体調を崩したり食欲が落ちたりするので、1日の生活の流れに余裕をもって設定し、一人一人が安定できるようにゆっくりと過ごせる環境を整えていく。 ・午睡の時間を十分にとるなど、体を休めることができるような時間と場を工夫する。 ・室内外の温度差から体調を崩すことがあるので、室内の温度調整に配慮する。 ・こまめに水分補給をするように声を掛ける。 ・プール遊びや水遊びを取り入れ、戸外で体を動かす楽しさや、水の中で動く楽しさが感じられるようにする。 ・光化学スモッグなどで戸外に出られない日もあるため、室内でも巧技台を使ってアスレチックをするなど、体を動かす楽しさを感じられるようにする。 ・栽培物を収穫したり食べたりすることを通して、食べ物に興味や関心をもち、友達と一緒に食べる喜びを感じることができるようになる。
<p>＜異年齢児と一緒に生活する上での配慮点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の状況に応じて、遊びの場を区切ったり、4・5歳児と別の保育室を生活の拠点にしたりするなど、一人一人の遊びや生活のペースを大切に過ごせるように配慮する。 ・同じ遊びや活動の中でも、3歳児、4歳児、5歳児それぞれに応じた必要な経験ができるように援助する。保育者がどの子供にも適切に対応できるように、連絡を密に行う。 	



<活動例>

〈プール遊び・水遊び〉 ビニールプール、組み立て式や作り付けの大きなプール、小学校又は地域施設のプールでの水遊び、水鉄砲、ペットボトルシャワー、浮き輪、ビート板、色水、石けん遊び、シャボン玉、フィンガーペインティングなど

〈自然とのかかわり〉 カブトムシ、スズムシ、ザリガニなどの飼育、夏野菜の栽培や収穫、セミの抜け殻探し、園で飼育しているウサギやモルモットなどの世話、夕立、入道雲、木陰の涼しさなど、夏ならではの自然現象の体験など

〈夏季保育中の行事〉 縁日ごっこ、夕涼み会など

〈その他〉 地域の施設利用（図書館、児童館など）



<家庭との連携>

- ・食欲が落ちたり暑さからの疲れが出たりしやすいので、十分に休息を取り、食事や睡眠のリズムを整えてもらう。
- ・プールチェック表への記入を保護者に依頼し、子供の健康状態を把握して、安全にプール遊びができるようにする。
- ・夏にかかりやすい伝染病の症状や熱中症の予防や対応など、夏の健康な生活に必要な情報を伝える。
- ・夏季保育ならではの経験（夏の遊び、自然とのかかわり、友達関係の広がりなど）や、そこで見られる子供のよさを具体的な姿を通して伝えていく。

3歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達のしていることに興味をもち、自分から遊ぼうとする。 ・友達と一緒に遊ぶ中で約束やきまりがあることを知る。 ・伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びを繰り返す。 ・砂や水を使って遊び、感触を楽しむ。 ・自然物（木の葉や木の実など）に興味や関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したこと、感じたこと、思ったことなどを保育者に話そうとする。 ・生活の中で必要な言葉が分かり、使ってみる。 ・リズムのある言葉を喜んだり、一緒に言ったりする。 ・絵本や紙芝居を楽しみにする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材を使って描いたり作ったりして、表現する楽しさを感じる。 ・自分で作った物を使って遊ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ場にいる友達や保育者にかかわって遊ぶ楽しさや、一緒にいる心地よさを感じる。 ・友達や異年齢児の遊びに関心をもち、仲間に入ったり一緒に動いたりして楽しむ。 ・園のいろいろな行事に参加して楽しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことをしながら、安心して遊ぶ。 ・一緒にいたい友達ができ、自分からかかわっていく。 ・自分の思いを自分なりの方法で相手に伝えようとしたり、相手の思いを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールが分かり、みんなで一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい、衣服の着脱、排せつなどの手順が分かり、自分でしようとする。 ・保育者と一緒に自分の遊んだ遊具や用具、場を片付けようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊具を使う、走る、跳ぶなど体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友達と曲に合わせて体を動かしたり、動きをまねしたりする。

<指導例>

◇ いろいろ色鬼、どんな色

保育者を中心に友達と一緒に動く楽しさを味わう。

僕も私も〇〇マン

お面を付けたりに手に道具（ステッキなど）を持ったりしながら、好きな曲に合わせて、なりきって動いたり踊ったりして、表現を楽しむ。

<援助のポイント>

- ・身の回りのことを自分からしようとする姿を見守り、認めたり褒めたりすることで自信をもたせていく。
- ・運動遊びやリズム遊びを通して、保育者も子供と一緒に体を動かしながら、その楽しさを伝えていく。また、友達や保育者と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように、活動内容を一人一人の子供の状態を見ながら工夫していく。

<家庭との連携>

- ・運動会などの取組や参加の仕方は個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。また、他学年の子供の様子も見てもらい、成長への期待や見通しをもって、3歳児の成長の様子を理解してもらうようにする。

3歳児 IV期（11月～12月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊びをしたり、面白そうなことをしている友達とかかわったりしながら、遊ぶ楽しさを感じる。 みんなと一緒に活動する中で、保育者や周りの友達の動きを見ながら、自分なりに動く楽しさを感じる。 園生活に必要なことを感じ取りながら、自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊びを繰り返し楽しむ。 身近なものの色、形、多い、少ないなどの違いに気付く。 好きなものになりきったり見立てたりして遊ぶ中で、感じたり考えたりしながら自分のイメージを表現して、楽しむ。 落ち葉や木の実、球根など自然物への関心をもち、気付いたり見立てて遊んだりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 遊びやおしゃべりの中でやり取りを楽しみながら、生活に必要な言葉を増やしていく。 好きな絵本や紙芝居ができ、何度も読んでもらったり、見たりして楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> カスタネットや鈴、手作り楽器などで遊び、自由に鳴らしたり音色を楽しんだりする。 自分なりのイメージをもって、描くことや作ることを楽しむ。 絵本や紙芝居を見て、好きな言葉を言ったりなりきって表現したりする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と同じ遊びや生活を楽しんでする。 友達と同じことがしたい、という気持ちが高まり、一緒に遊ぼうとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。 行事を通して異年齢の子供と触れ合い、楽しさを感じたり、年長児に対する憧れを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。 遊びの中で遊具の安全な使い方や動きに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いやうがいの大切さを知り、自分でしようとする。 箸の持ち方を知り、箸を使って食事をしようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 走る、踊る、鬼ごっこをするなどみんなと一緒に体を動かすことを楽しむ。 音楽に合わせたリズム遊びやボールを蹴る、ブランコに乗るなど、遊具を使った運動遊びを楽しむ。

<指導例>

◇ 見て見て、葉っぱでお面を作ったよ
秋の季節を感じたり、自然物にかかわって遊んだりすることを楽しむ。

サーキット遊びを楽しもう！

例) スタート→ごろごろ転がる→平均台渡り→トランポリン跳び→はって棒渡り→タンバリンをねらってジャンプ→室内鉄棒→はしご登り、室内滑り台滑り（巧技台）→はじめに戻る
保育者の動きを見ながら遊び方を知り、様々な動きを個々に応じて楽しめるようにする。遊びながら安全な遊び方や、順番なども経験できるようにする。

<援助のポイント>

- 自分のイメージや見立て、言葉や動き、造形遊びなどで伸び伸びと表現する喜びを大切にす。
- 一緒にいたい友達とかかわれるようにコーナーや遊びの場の配置に留意し、自分なりに思いを言葉や行動に表している姿を認め、安心して遊べるようにする。また、クラスの友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。

<家庭との連携>

- 園で楽しんでいる秋の自然にかかわる遊びや、散歩コースの紅葉や木の実を拾える場所などをクラスだよりや写真の掲示などで知らせ、家庭でも自然に親しむとともに、親子のかかわりを大切にす。

3歳児 V期（1月～3月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを出しながら好きな遊びを十分に楽しむ。 ・保育者やクラスの友達と一緒にリズム遊びや表現遊びを楽しむ。 ・園生活に必要なことが分かり、できることを自分からしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・風の冷たさや息の白さなど、冬の自然の変化を見たり、触れたりして体で感じる。 ・花の開花や日差しなどから春の訪れを感じる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な言葉が分かり、自分なりに使おうとする。 ・思ったことを友達に言ったり、相手から聞かれたことに応じて答えたりする。 ・保育者や友達と、簡単ななぞなぞや反対言葉などを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある素材や材料（広告紙、小さく切った紙、小箱、カップなど）を、自分なりに選び、作ることを楽しむ。 ・リズムに合わせて身近な楽器を鳴らすことを楽しむ。 ・絵本やお話のイメージを楽しみ、なりたいたいものになったり動いたりするなど、自分なりの表現を楽しむ。
人とのかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達のしている遊びに興味をもち、自分もかかわりながら遊ぶ。 ・一緒に遊びたい友達と同じ場で遊ぶ中で、自分なりの動きを出す。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思っていることやしたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶ。 ・保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことを喜び、大きくなったことを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や安全に必要な簡単なきまりが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの物の整理や遊びの片付けなど自分のことは自分でしようとする。 ・身の回りで必要なことを自分からしたり、できるようになったことを喜んだりする。 ・やけどに気を付ける、戸外に出るときは上着を着るなど、冬の生活に必要なことを知り、自分からやってみようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・寒くても戸外に出て、保育者やみんなと一緒に簡単なルールに沿って体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・散歩を通して、坂道や歩きにくい所もしっかりと最後まで歩く。 ・戸外で遊んだり固定遊具や巧技台を使って遊んだりすることを通して、いろいろな体の動きを楽しむ。

<指導例>

- ◇ **片付けの後は、どんな楽しいことがあるのかな**
自分なりに生活の見通しをもつ。

つながってみよう、繰り返しやってみよう

「大きなかぶ」や「手ぶくろ」といった、繰り返しのあるストーリーの中で自分なりのイメージを膨らませ、役になりきってつながってみたり、繰り返しのあるセリフを言ってみたりして、友達と一緒に楽しむ。

<援助のポイント>

- ・友達との遊びを楽しんでいることを十分に受け止め、共感する。
- ・子供が自分から気付いてやってみようとする姿やできるようになったことを認めて、進級する気持ちへつなげていく。

<家庭との連携>

- ・子供の1年間の成長を具体的に保護者と伝え合い、喜びを共感しながら進級する気持ちへつなげる。
- ・個人差が大きく進級に向けての不安な気持ちをもつこともあるが、今できることを十分に認め、成長を見守ってもらうようにする。

4 歳児 I 期（4 月～5 月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、保育者とのかかわりを基盤に、自分の思いを表しながら遊んだり生活したりする。 ・気の合う友達や保育者と自分のやりたい遊びを楽しむ。 ・新しい環境での生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分なりにやってみようとする。 	
		進級児	新入児
学 び の 芽 生 え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や周囲の子供の動きに興味をもちやってみようとする。 ・自分から新しい環境にかかわり、気に入った遊びを見付けて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が安定できる場や遊具で遊ぶことを楽しむ。 ・気に入った遊びを見付けて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや感じたことを言葉で表し、伝えようとする。 ・保育者や仲のよい友達と挨拶をする。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な言葉があることに気付き、使ってみる。 ・自分の思ったことを言葉で表す。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたままに表したり、何かのつもりになって遊んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、自分と同じような動きに関心をもったりする。
人 と の か か わ り	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達と同じ遊びを楽しむ。 ・クラスの人などと一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの人などいることを楽しいと感じ、安心して過ごす。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に親しみをもって遊んだり生活したりする。 ・困ったときなどに自分から保育者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に親しみをもち、安心してかかわれる存在であることを感じる。 ・思ったことや感じたことを表情、態度、言葉などで自分なりに表現する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と楽しく遊ぶためにはルールがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に必要なきまりがあることや、「ありがとう」「ごめんね」など友達とのかかわりに必要な言葉があることを知る。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいクラスでの生活の仕方を知る。 ・危険な物や場所を知り、安全に気を付ける。 ・できることは自分なりにやってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園での過ごし方を知る。 ・危険な物や場所を知る。 ・できることは自分なりにやってみる。 ・園での食事の仕方を知り、楽しく食べる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳時に経験した遊びで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・友達や保育者の動きを見て、同じように体を動かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者の動きをまねたり、自分なりの動きを楽しんだりする。 ・戸外に出て歩いたり走ったりしながら体を動かして遊ぶことを楽しいと感じる。

指導例

◇ **面白そうだな、やってみたいな**
それぞれがやりたいことを見付けて安心して遊ぶ。

ダンゴムシ見付けた

容易に見付けたり捕まえたりできるダンゴムシは、虫に初めて出合う子供でも親しみやすい。時には世話をすることなどを通して、命の大切さに気付くきっかけにする。

<援助のポイント>

- ・進級児はできるだけ自分で行動できるような分かりやすい環境を構成し、進級した喜びが味わえるようにする。新入児は、みんなで一緒に生活することを楽しめるようにする。
- ・それぞれの子供のペースを大切に、新しい環境に慣れていくようにする。
- ・新しい保育者や友達に親しみを感じられるような言葉を掛け、安心して過ごせるようにする。
- ・友達と同じ場で過ごしたりかかわりをもったりできるように、遊びの場を設定したり遊具の数を十分に用意したりする。

<家庭との連携>

- ・進級や入園による喜びや不安に対して、共感したり励ましたりしながら、一緒に子供を支えていけるようにする。
- ・4歳児は友達とのかかわりが増えるので、トラブルや友達関係などの不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、1年間の成長を共に見守っていけるような関係づくりに努める。
- ・園での様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりしながら、保護者との信頼関係を築いたり深めたりしていく。

4 歳児 II 期（6 月～9 月上旬）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材に触れ、取り入れて遊ぼうとする。 ・気の合う友達と互いの思いを出して遊ぶことを楽しむ。 ・クラスの活動で自分なりに動いたり同じ動きをしたりすることを楽しむ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な虫や小動物などに触れたり、園庭の草花や栽培している植物に興味をもって、生長を楽しみにしたり収穫することを喜んだりする。 ・砂や泥、水などの自然物に触れて感触を楽しみながら遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞保育者の仲立ちによって、思ったことや困ったことを言葉で相手に伝えようとする。 ・自分の思いや困ったことを保育者や友達に伝えようとする。 ・絵本の読み聞かせを楽しんで聞く。 ・歌や絵本、リズムのある言葉に興味をもち、一緒に口ずさむことを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞身近な素材を使って作ることや、作ったものを使って遊ぶことの楽しさを感じる。 ・身近な素材を使い遊びに必要なものやイメージしたものを作る楽しさを感じる。 ・新しい素材や材料に興味をもってかかわり、必要なものを使ったり作ったりして遊ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。 ・友達と同じものを身に付けたり、一緒に動いたりする楽しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞思い通りにならないことがあるときに保育者に思いを受け止めてもらい、我慢したり気持ちを切り替えたりする。 ・受け入れてくれる友達に自分の思いや感じたことを伝えようとする。 ・友達の言葉や動きに気付き、自分なりに応じていく。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に過ごすための約束やきまりを知り、守ろうとする。 ・集団行動の約束や保育者の指示を聞き、動こうとする。 ・ルールを守ると楽しく遊べることが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞園生活の流れが分かり、自分から動く。 ・天候に合った生活の仕方を知り、自分で行おうとする。 ・＜新＞園外に出たときの行動の仕方を知る。 ・夏野菜の収穫を通して、みんなで一緒に食べる楽しさや食べられたうれしさを感じる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に、音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。 ・プール遊びを通して、水の中での動きを楽しみ、開放感を味わう。

※＜新＞は、新入児に特に配慮する内容を表す

＜指導例＞

◇ フルーツバスケットは楽しいな

みんなで唱和したり一緒に動いたりする楽しさを感じる。

作るのって楽しいね

細かい色紙をはさみで切ってカップに入れる（ジュース）、丸い台紙のにりで貼る（ピザ）など、子供にとって身近なイメージを取り入れた制作活動を通して、のりやはさみの使い方を知らせる。

＜援助のポイント＞

- ・友達とのつながりができてくるので、思いを表したり伝えたりすることを楽しくめるように、いろいろな友達の姿を伝えたり、思いが伝わり合うように言葉を補ったりしていく。
- ・いろいろな素材や用具に触れられる機会を設け、扱い方を知ったり遊びに取り入れたりしていく楽しさを味わえるようにする。
- ・プール遊びの約束、着替えや水着の始末の仕方などを分かりやすいように工夫して伝え、プール遊びに期待をもち、楽しく取り組めるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・遊びや友達同士のかかわり方など、様々な様子が見られる時期である。言葉の使い方や思いの表し方などの実態や、相手へのかかわり方に気付いていけるように保育者が援助していることをクラスだよりなどで知らせ、家庭への理解を図るとともに、一緒に成長を見守っていけるように連携を図る。
- ・大人が先に指示をしたりせず、子供が自分で行おうとしている気持ちを尊重し、温かく見守っていくことが自信や意欲につながっていくことを知らせる。

4 歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な出来事にかかわり、驚き、気付き、発見などを通して、様々なことに興味や関心を広げる。 ・友達とのかかわりを楽しみながら自分の動きや思いを出して遊ぶ。 ・戸外で思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然の変化に気付いたり、草花を遊びに取り入れたりして楽しむ。 ・繰り返し遊ぶ中で自分なりのやり方を試したり工夫したりする。 ・身の回りの物に触れたり使ったりして遊ぶ中で、物の性質（重い、軽い、硬い、柔らかい、伸びる、縮むなど）に気付く。 ・運動会などの行事を通して、様々な国などの旗があることを知り、関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや友達とのかかわりの中で、自分の思いを動きや言葉で表していく。 ・保育者や友達に親しみをもって挨拶をしたり、会話を楽しんだりしながらつながりを感じる。 ・気に入った絵本を保育者に読んでもらったり、自分で見たりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に伸び伸びと体を動かして踊ったり、自分なりの表現を楽しんだりする。 ・遊びや行事の中で、身に付ける物や使う物を作り、それを使って遊ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達とのかかわりを楽しむ。 ・クラスのみなどと一緒にルールのある遊びをして、遊ぶ楽しさを味わう。 ・友達との遊びの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児と一緒に行事に参加して、親しみや憧れを感じる。 ・みんなの中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ。（かけっこ、リズム、運動会に向けての活動など） ・行事を通して様々な人（職員、他の保護者、地域の方など）とのかかわり、親しみをもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・集団遊びやゲームを通して、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 ・約束やルールを守ることでみんなが気持ちよく過ごせることを感じる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りの物の始末や、使った物の片付けを自分でしようとする。 ・生活に必要なことが分かり、自分からやってみようとする。 ・安全に過ごすための約束やきまりが分かり、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな動きを試しながら、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・用具や遊具の使い方に慣れ、組み合わせて場をつくって遊ぶ。

<指導例>

◇ 年長さん、教えて

年長児と一緒に運動遊びを楽しみ、憧れや親しみをもつ。

ぼくはこっちがいいのに…

友達との遊びの中で自分の思いを出すのが、相手が違う思いだと受け入れてもらえないこともある。保育者が仲介となり、双方が思いを言葉で表し相手の思いを聞くことで解決に向かえるように援助する。

<援助のポイント>

- ・子供同士で思いがぶつかる時は、保育者が双方の思いをくみ取りながら相手の思いに気付けるように仲介していく。その後の手だてを一緒に考え、心を落ち着けたり気持ちを切り替えたりして遊べるようにする。
- ・遊びの中で、いろいろな動きを試せるような用具を使ったり、子供が興味をもっているイメージを取り入れたりして、自然に体を動かして遊ぶ気持ちが高まっていくようにする。

<家庭との連携>

- ・日頃の遊びを積み重ねることが行事の内容やそこでの子供の姿に生きることを、懇談会やクラスだよりなどで伝える。また、例えば運動会に向けては、勝ち負けやできばえのみにこだわらず、楽しんでいることや自分なりに頑張っている姿を大事にするなど、行事で大切にしたいことを伝え、共通理解を図る。
- ・運動会や保育参観など保護者の参加、協力の機会が増えるので、共に子育てをする喜びや保護者同士のつながりを感じられるような内容、方法を工夫する。

4 歳児 IV期（11月～12月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで遊びの場をつくったり、見たことや感じたことを様々な方法で表現したりして遊ぶことを楽しむ。 ・遊びや生活の中で、クラスの友達とみんなで活動する楽しさを味わう。 ・季節の変化に伴い、生活の仕方が変わることを知る。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・季節による自然の変化に気付き、木の実や落ち葉など自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 ・身近な用具の扱い方が分かり、目的に合わせていろいろな使い方があることを知る。 ・いろいろな材料や素材に触れる中で、数量、物の色、形などに興味をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達との会話を楽しむ。 ・絵本やお話などを喜んで見たり聞いたりして、イメージを広げる。 ・絵本や歌の中にある面白い言葉に気付き、喜んだり繰り返したりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで歌ったり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 ・お話の中の人や動物などになりきって遊ぶ。 ・自分のイメージに合わせて材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。 ・思ったことを自由に描いたり作ったりすることを楽しみ、見たり飾ったりする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。 ・友達の動きに関心を持ち、その動きに合わせてたり応じたりして動く楽しさを感じる。 ・簡単なストーリーや遊びの流れの中で、相手と自分の動きがかかわり合いながら遊びが進んでいく面白さを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。 ・保育者の言うことを受け止めて、行動しようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と生活する中でできまりの大切さを感じ、自分なりに守ろうとする。 ・共同の遊具や用具を大切にし、貸し借りをして使ったり一緒に片付けたりする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいの大切さが分かり、自分からすすんで行う。 ・自分の身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり、すすんで取り組む。 ・必要に応じて、衣服の調節を自分で行う。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に、鬼遊びやしっぽ取りなど簡単なルールのある遊びを楽しむ中で、思い切り体を動かす。 ・いろいろな遊具や用具を使って、様々な動きを組み合わせる遊びで遊ぶ。

<指導例>

◇ いいものができた

様々な素材を使いながら、作る楽しさを味わう。

◇ てぶくろごっこをしよう

好きな遊びの中で簡単な表現遊びを楽しんだり、クラスみんなで誕生会やお楽しみ会で発表する楽しさを感じたりする。

いい音がしたね

クラスみんなで知っている歌に合わせて楽器遊びをする。自分なりに自由に鳴らしてみたり、簡単な分担奏で友達と音を合わせたりする。

<援助のポイント>

- ・友達と一緒に遊びたい気持ちが強くなってくるので、友達とのかかわりの中で、相手の気持ちに気付くように、個々の思いを保育者が受け止めながら、言葉で相手に伝えていく。
- ・遊びの中で「こうしたい」という子供の思いを受け止め、イメージや目的に合うような素材や材料と一緒に見付けたり提示したりするなど保育者が積極的に支え、自分たちで遊ぶ楽しさを十分に味わえるようにする。子供が思い付いたことを自分で実現できたと思えるような援助の工夫をする。

<家庭との連携>

- ・個人面談を設定し、日常生活での子供の取組や友達とのかかわりの中で変容した姿を伝える。成長したことで見えてくる個々のよさや課題を保護者と共有し、一緒に子育てに取り組み、成長を喜び合う関係を築いていく。

4 歳児 V 期（1 月～3 月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達といろいろな活動をする中で、クラスのつながりを感じて遊びや生活を進める。 ・基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びのきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然現象や冬から春への自然の変化に関心をもち、感動したり疑問をもったりする。 ・今までにしたことを思い出したり、遊びに取り入れたりする。 ・絵の表示、記号、文字などに興味や関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達の話聞いて内容が分かったり、自分の思いを相手に言葉で伝えたりする。 ・日常生活に必要な言葉が分かり、すすんで使ったり、自分から挨拶をしたりする。 ・絵本や紙芝居などの話の展開を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と気持ちを合わせて歌ったり、合奏したりすることを楽しむ。 ・遊びに必要なものを工夫して描いたり作ったりし、それを使って友達と遊ぶ。 ・絵本やお話などのストーリーに沿って、自分のイメージを動きや言葉などで表現して遊ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする。 （1 日入園での新入園児とのかかわり、お別れ会の計画、当番活動など） ・クラスのみなどと一緒に活動する中で、満足感やクラスとしてのつながりを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の前で自分の思ったことを表現し、受け止めてもらえるうれしさを感じる。 ・行事やクラスの活動の中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。 ・年長児と交流したり、当番の引き継ぎなどを行ったりして、年長児の生活に期待をもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・よいことと悪いことに自分で気付き、自分なりに考えて行動する。 ・簡単なルールをつくったり、ルールを守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは、自分でする。 ・自分の健康に関心をもち、様々な食べ物をすすんで食べようとする。 ・気持ちよく食事をするために、挨拶や姿勢などのマナーに気を付ける。 ・行事を通して、伝統的な日本の食文化を知る。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに負けず、戸外で全身を思い切り動かして友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分なりのめあてをもって縄跳びやフープなどに取り組み、積極的に体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ 年長組のお別れ会をしよう

保育者やクラスの友達と一緒に活動を進める中で、自分の考えを出したり、友達と力を合わせたりする。

助け鬼をして遊ぼう

チームの友達に助けを求めたり、勇気を出してチームの友達を助けに行ったりして、助け合ううれしさを感じながらルールに沿って遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・自分でできたという自信がもてるように、個々に考えたり試したりしている姿を見守り、それぞれの状態に応じて相談に乗ったり、方向性を示したりする。
- ・年長児の生活の仕方を聞いたり、当番活動の引き継ぎをしたりする機会を設け、年長児になることへの期待をもたせていく。

<家庭との連携>

- ・1 年間の子供の成長を振り返り、保護者と共に喜び合う。
- ・子供たちの進級に向けての活動の様子（お別れ会、新入園児とのかかわり、修了式への取組など）を伝え、保護者も一緒に進級に期待をもてるようにする。

5 歳児 I 期（4 月～5 月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に自分からかかわり、いろいろな遊びに取り組む。 ・自分のやりたい遊びをしたり、友達や保育者とのかかわりを楽しんだりしながらクラスのつながりを感じる。 ・年長児としての自覚をもち、生活の仕方が分かり、すすんで行く。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を取り入れて遊ぶなどする。 ・戸外の自然に接し、その美しさや季節の変化に興味をもち。 ・イメージに合う材料や用具を選び、場の構成の仕方を工夫して遊びを楽しむ。 ・砂や泥や水などの感触を楽しんだり、特性に気付いて試したりする。 ・様々な行事などを通して、国旗に親しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする。 ・保育者や友達などに自分から挨拶をする。 ・身近な出来事について、感じたことや不思議に思ったことを言葉で表現する。 ・美しいものや心を動かされる出来事に出会い、感じたことやイメージしたことを表現することを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・体で感じたりリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと表現する。 ・新しい素材や教材を使い、考えたことを自分なりに作ったり描いたりして表現することを楽しむ。 ・友達と一緒に、遊びに必要なものを自分なりに工夫して作ることを楽しむ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じる。 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。 ・うまくいかないことを通して、友達の考えや提案に気づき、受け止めようとする。 ・友達と一緒に最後まで活動する喜びを味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。 ・年下の子供に対して親しみの気持ちをもって接したり、世話をしたりする中で、年長児としての自覚をもち。 ・友達の動きや言葉を感じ取りながら行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の中でのきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒につくる。 ・友達とのかかわりの中でルールを理解し、守って遊ぶ楽しさを味わう。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。 ・手洗いやうがいなど、必要に応じて自分から行う。 ・新しい場での生活の仕方や片付け方を知ったり、1日の園生活の流れが分かって行動したりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを感じる。 ・新しい遊具にかかわりながら使い方を理解し、安全に使用しようとする。

<指導例>

- ◇ 年長さんになったよ
進級の喜びを味わう。

みんなで作ったこいのぼり

一人一人が作ったものを合わせ、クラスで一つの大きなこいのぼりを作る。園庭に飾ることで進級の喜びや年長になった自覚をもてるようにする。

<援助のポイント>

- ・年長になり、張り切っている気持ちや、役に立ちたい気持ちを認めることにより、進級した喜びを十分に味わわせ、自信をもって行動できるようにする。

<家庭との連携>

- ・進級による喜びや不安に対して、保護者の思いに共感したり励ましたりして、一緒に子供を支えていくようにする。
- ・1年間の指導の概要や小学校との交流などの予定を伝え、年長の1年間に見通しをもって過ごせるようにする。

5歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に触れ、自分なりの目的をもち、試したり、考えたりしながら遊ぶ。 ・友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びを進める。 ・自分なりにめあてをもって、いろいろな遊びに繰り返し取り組む。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜や草花の栽培を通して、生長の様子に関心をもち、よく見たり考えたりする。 ・身近な出来事に興味をもち、疑問に思ったことを保育者に聞いたり、調べたりする。 ・身近にあるいろいろな素材や材料の使い方が分かり、遊びに生かそうとする。 ・自分なりに楽しみながら砂や水、いろいろな素材の特性が分かり、利用して遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の伝えたいことを言葉で伝える。 ・経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かるように言葉で伝えようとする。 ・物語や昔話などいろいろな絵本に親しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・素材の組み合わせを楽しみ、工夫して使う。 ・いろいろな楽器の使い方が分かり、友達と一緒に音を合わせる楽しさを感じる。 ・クラス全体での歌、手遊び、ダンスなどを通して、声や動きが合うことの心地よさを感じ、表現を楽しむ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と十分にかかわり、いろいろな遊びを進める。 ・友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。 ・相手に話を聞いてもらい、思いが受け止められたうれしさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違う友達の思いや考えを受け入れようとする。 ・分からないことなどを自分から聞いて、解決を図ろうとする。 ・友達に共感したり、自分の気持ちを伝えたりする。 ・小学校との交流を通して小学生と触れ合うことを楽しむ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のきまりやしてはいけないことの意味や大切さが分かり、自分たちで知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。 ・友達と簡単な遊びのルールを確認したり、伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。 ・危険なことを自分で判断し、遊んだり生活したりしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの使った遊具や保育室をきれいにしたり、共有の場をみんなで片付けたりする。 ・汗を拭く、衣服の調整、手洗い、うがいなどを、自分で気付いて行う。 ・1日の園生活に見通しをもち、状況を受け止めて自分なりに動こうとする。 ・栽培している植物の収穫を喜び、友達と一緒に何でも食べてみようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動に興味をもち、様々な体の動きを楽しむ。 ・水遊び、プール遊びなど季節ならではの遊びを通して、思い切り活動する充実感を味わう。 ・遊具や用具など安全に気を付けて遊ぶ。

<指導例>

◇ 野菜を育てよう

- ・世話をしながら生長の変化に気付く。
- ・野菜を収穫し、一緒に食べることを喜ぶ。

船を作ろう

水に浮くもの（スチレン皿、カップ類など）を選んだり、船を進ませるための動力（ゴム、息を吹く、風船など）を工夫したりして、動く船作りを楽しむ。

<援助のポイント>

- ・子供たちが自分たちで考え、やってみたいと思えるような場を多く設定し、その中で自分の力を十分発揮できるように見守る。
- ・子供同士の意見のぶつかり合いや葛藤を通して、相手の思いを理解し、子供が自分で乗り越えられるように励ましたり見守ったりして気持ちを支えていく。

<家庭との連携>

- ・自分の力で生活を進められるように、園と家庭が共に励ましの言葉を掛けるなどして、温かく見守っていく。
- ・子供同士の間で起こった出来事については丁寧に伝え、友達とのかかわりの中で経験していることや、そこで育つことについて理解し合い、見守っていく。

5歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動を通して、すすんで物事に取り組む楽しさや達成感を味わう。 ・みんなでする活動を楽しみながら、友達よさに気づき、様々な友達への親しみを広げる。 ・自分の目的に向かって力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な物の数、人数、適当な大きさ、長さ、バランスを考えて活動する。 ・遊びに使う簡単な標識や文字、数字に興味をもったり読んだりする。 ・遊びの中で数を数える、量を比べる、いろいろな図形に関心をもつなどする。 ・用途に合った素材を選んで使い、遊びに生かす。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことを話したり、友達の話の聞いたりする。 ・経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かる言葉で伝える。 ・話の内容を理解し、言葉の使い方、楽しさ、心地よさに気付く。 ・物語や話の続きに興味をもち、クラスの友達と楽しんで聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・動きや体を意識した表現を楽しむ。 ・経験したこと、感じたこと、考えたこと、イメージしたことなどを、様々な方法で自分なりに表現する。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。 ・クラスや同年齢の友達、保育者と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと相手の考えの違いに気づき、受け入れようとする。 ・自分の力を発揮し、友達よさに気付いたり認めたりしながら遊ぶ。 ・自分の身近な人（高齢者、年下の子供、地域の人など）とのかかわりを通して、相手を思う気持ちをもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの必要性や危険なことについて分かり、意識して行動する。 ・自分の行動の結果を、自分なりに考える。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・所持品の整理や片付けをすすんで行う。 ・健康な生活、食事の大切さなどを知り、自分の体への関心をもつ。 ・1日の園生活の流れを予測したり、見通したりして状況に応じて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ心地よさを味わう。 ・遊びのルールを確かめたり工夫したりして、友達と一緒に集団での遊びを楽しむ。 ・ルールのある遊びを通し、チームで競い合うことを繰り返し楽しむ。

<指導例>

◇ 絵本って、楽しいね

本の読み聞かせを通して、お話や文字に興味をもつ。

◇ みんなでつくる運動会

運動会を自分たちで考え、進めていく気持ちをもつ。

割りピン人形を作ろう

体を動かして遊ぶことを楽しんでいる姿を生かし、関節部分に割りピンを使って体の動きを再現できるような人形を作る。運動会の場面を再現した壁面構成などを考え、人形の動きが生かされる掲示の仕方を工夫する。

<援助のポイント>

- ・いろいろな活動の中で、子供の挑戦しようとする気持ちを受け止め、目的が明確にもてるようにする。それぞれの頑張る姿をクラスの子供に知らせ、よさに気付かせるとともに、みんなで喜び合う気持ちを高めていく。
- ・友達とのかかわりの中で互いの思いを理解できるように、相手の言葉や表情、行動に自分から関心を向けられるようにする。

<家庭との連携>

- ・クラスだよりや保護者会などを通して、目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいく過程を伝え、日々の保育や行事などの様子から、子供の成長を理解し喜びを感じてもらえるようにする。
- ・体を動かすことで様々な意欲が引き出されることを伝え、子供の伸びようとする力を園と家庭の両方で生かしていく。

5 歳児 IV期（11～12月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や事象を見たり触れたりしながら、好奇心や探究心を深める。 共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら遊びに取り組み、達成感を味わう。 チームで競い合う楽しさを味わいながら、十分に体を動かして遊ぶ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに応じて、必要な表示を考えたり文字や数字を積極的に取り入れたりする。 今までに経験した遊び方や遊具、素材などを遊びに取り入れる。 友達の意見や考えに刺激を受け、自分なりに考えようとする。 季節の変化に関心を持ち、遊びに取り入れたり調べたりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 理由を添えたり新しい提案をしたりして、自分の考えを分かってもらえるように話す。 友達の話の内容を理解しようと、関心をもって聞く。 生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表現したいことを材料や方法を選び、工夫して作ることを楽しむ。 絵本や物語に親しみを持ち、想像を豊かにして表現する楽しさを味わう。
人とのかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。 友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを十分に味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いを付けて進めようとする。 友達の中で、自分の力を発揮していく。 友達のよさに気付いたり認めたりしながら、遊びを楽しむ。 相手の立場に立って、考えたり行動したりしようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> よいことや悪いことを自分で考えて行動する。 活動に合わせてルールを考えたり変えたりしながら、それを守って進める。 そのときにすべきことが分かり、自分から行動する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 所持品の整理や片付けをすすんで行う。 共同のものの片付けの必要性を感じ、自分から片付けようとする。 1日の園生活の流れに見通しを持ち、友達と声を掛け合って行動する。 健康な生活や病気の予防に関心を持ち、意識して行動する。 交通ルールや公共のマナーを知り、気を付けて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 遊具や用具、遊びに使う場所など安全に気を付けて遊ぶ。

<指導例>

◇ 投げごまを回そう

めあてをもって、繰り返しあきらめずに取り組む。

小学校に行って1年生と一緒に秋遊びをしよう

小学校の教育活動に参加して「ひと・もの・こと」に慣れ、親しむ。
(就学前教育プログラムP.18、19「1年生と一緒に秋遊びをしよう」参照)

<援助のポイント>

- グループでの取組の中で一人一人が十分に自己を発揮し、互いのよさや考えに触れて協同して遊べるような機会を意図的に設定する。
- 少し難しいことに向き合い、友達と一緒に工夫して乗り越えていく機会を意図的に作り、達成感を重ねられるようにする。
- 思いや考えの違いに気付き、グループの友達と折り合いを付けながら遊びを進めていくことができるように援助していく。

<家庭との連携>

- グループの友達との活動を通して協同性が育まれ、小学校での生活や学習の基礎になることを伝えるときにも、自分の子供やクラスへの理解が深まるようにする。
- 就学に向けて生活習慣などを園と家庭で見直していく機会をつくり、家庭でも意識をもって生活してもらえるようにする。

5 歳児 V 期（1 月～3 月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを様々な方法で表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組む。 ・友達と共に過ごす喜びを味わい、自分たちで遊びや生活を進め、充実感を味わう。 ・自分の体に関心を持ち、心身の成長を喜び合い、就学への期待をもつ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然現象に関心を持ち、考えたり試したりして自然を取り入れて遊ぶ。 ・身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりして遊びに取り入れる。 ・日常生活に必要な文字や数字、標識などに興味や関心を持ち、遊びの中ですすんで使う。 ・小学校での授業の体験などを通して、入学への期待をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・見る、聞く、感じる、考えるなどの経験を、自分なりの言葉で十分に表現する。 ・誰とでもすすんで挨拶を交わしたり、お礼の気持ちを言葉で伝えたりする。 ・話している人に気持ちを向け、自分の経験と重ね合わせながら、関心をもって話を聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の様々なものに自分からかかわり、いろいろな方法で伸び伸びと表現することを楽しむ。 ・みんなで気持ちを合わせ、歌や踊り、劇や楽器の演奏などをする。 ・友達と一緒に共通の目的を持ち、遊びの場や必要なものを作ったり描いたりする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスや学年の友達とみんなでする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。 ・自分たちで遊びや生活を進める充実感を味わう。 ・共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことや考えたことを友達に分かるように伝え、友達の話聞いて受け止める。 ・友達の得意な面やよさに気付き、生かし合って遊ぼうとする。 ・小学校との交流などを通して小学生と触れ合い、小学校を身近に感じる。 ・自分のことを認めてもらう経験を通して、自信をもって行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えたルールを守って友達と一緒に遊ぶ。 ・今は何をすべきかを自分なりに判断し、状況に応じた行動をしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの整理や片付けの必要性が分かり、協力してすすんで行う。 ・時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 ・交通ルールが分かり、守って行動する。 ・行事や経験を通して、伝統的な日本の食文化に関心をもつ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶ充実感を味わう。 ・運動用具の使い方が分かり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。

＜指導例＞

◇ 集まってドッジボールをしよう

様々な友達の中で、自分の力を発揮して遊ぶ充実感を味わう。

◇ 友達と一緒に、劇をつくっていこう

同じ目的に向かって友達と相談したり、力を合わせたりしながら活動に取り組む。

小学生と一緒に作品作りをしよう

小学生と協力して作品作りを行うことを通して一緒に表現することを楽しむ。
(就学前教育プログラム P. 22、23「みんなで力を合わせて“なかよしタワー”の飾り付けをしよう」参照)

＜援助のポイント＞

- ・友達と互いのよさを生かし合いながら、試したり、発見したり、考えたりする楽しさを味わい、自分たちで取り組んだ充実感を十分に味わえるようにする。
- ・生活の中で十分に自己発揮をしている姿を認め自信につながるようにかかわる。
- ・様々な友達とかわる中で、それぞれが成長したことを認め合い、自信がもてるようにする。
- ・就学に向けて期待が膨らむ思いを十分に受け止め、小学校入学への期待感をもてるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・保護者会などで、小学校の生活や学習について具体的に伝える機会をもち、入学に向けて不安や疑問を解消できるようにする。
- ・具体的な場面を通して子供の成長を喜び合い、入学への期待につなげていく。

<参考> 0歳児から2歳児の発達過程

保育所保育指針では、発達過程に応じた保育として「三歳未満児については、一人一人の子どもの生育暦、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成すること。三歳以上児については、個々の成長と、子ども相互の関係や協同的な活動が促されるよう配慮すること。」と示されています。

そのため、ここでは、保育所や認定こども園において、三歳未満児の個別的な計画を作成する際に参考となるよう、0歳児から2歳児の発達過程を例示しました。

0歳児の発達（新生児～56日頃）

学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・機嫌のよいときに、周囲に反応したり、体の動きに伴って「アーアー」「ウーウー」など喃語が表れたりする。 ・明るい光や音がする方に反応を示す。
人とのかわり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・あやされると、機嫌よく笑ったり声を出したりする。 ・大人に抱かれたり、受容されたりする心地よさを感じる。 ・大人にあやされて泣きやむ。 ・快（授乳後、目覚め、入浴後、あやされているときなど）と不快（空腹、眠い、おむつが汚れているときなど）の様々な感情を、泣くなどの行動や表情で表す。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳やミルクを飲むとき、排せつ時以外はほとんど眠っている。 ・母乳やミルクをよく飲む。 ・眠りに入るようなまどろんだ状態のときや、浅い眠りの状態のときに、口角が上がってほほえむ。（自発的微笑・生理的微笑） ・手指を口に持っていき、なめる。 ・おむつを替えるときや入浴時に手足を動かす。 ・哺乳びんを支えるような動きを見せる。 ・物を持たされると、固く握りしめる。 ・自然に寝ている姿勢は、顔をいずれか一方に向け、腕は肘で曲げてやや握った状態である。 ・目覚めているときは、両手を身体の横に伸ばしたり、手足を盛んに動かしたりする。 ・新生児の視野にものを差し出し、それを動かすと目で追う。 ・保育者の顔など目の前のものをじっと見つめる。 ・大人のまねをして舌を突き出すなどの模倣行為を行う。 ・物音にびくつしたり目を覚ましたりする。

<援助のポイント>

- ・身体的な欲求が満たされるとともに、温かな働き掛けで満足感や安心感を味わえるようにする。
- ・新生児は心身ともに未熟で抵抗力が弱いので、清潔で安全な環境づくりや、衛生管理に努める。
- ・視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚といった諸感覚や感受性が芽生えるため、様々な感覚に働き掛けるようにする。
- ・新生児の動きや表情を読み取り、その子供のリズムやテンポに合わせて、会話を楽しむようなつもりで働き掛ける。その際、正面からかわるようにする。
- ・乳児突然死症候群(SIDS)のリスクを防ぐため、あお向けの姿勢で子供を眠らせるようにし、一定の間隔で寝ている姿勢を確認する。また、柔らかいまくらや重い毛布等、呼吸を妨げるようなものは使用しないようにする。
- ・皮膚を乾いた状態に保つため、おむつを頻繁に取り替えたり、授乳やよだれによる口の周りの汚れを、こまめに拭き取ったりする。

<家庭との連携>

- ・育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い、支える。
- ・様々な理由で泣き、温かく対応してもらうことで愛着が育ち、コミュニケーションにつながっていくことを伝える。生理的な欲求を満たすとともに、声を掛けたり、スキンシップをしたりするなどの対応の仕方や大切さを知らせていく。
- ・乳児突然死症候群(SIDS)の予防など、この時期に気を付けることを知らせる。

0歳児の発達（56日頃～3か月頃）

学 び の 芽 生 え	思 考 言 葉 創 造	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻から出ている音声は喉からも出るようになり、母音に喉子音が結び付いた発声も聞かれるようになる。 ・光（明るい光、優しい光など）に反応する。
人 と の か か わ り	協 同 信 頼 規 範	<ul style="list-style-type: none"> ・不快感が芽生え、空腹になったりおむつが汚れたりすると、目覚めて泣く。 ・抱かれて、泣きやんだり安心した表情になったりする。 ・音や話し声のする方に顔を向けようとする。 ・あやしたり話し掛けられたりするとよく笑うようになる。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基 本 的 な 生 活 習 慣 運 動	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。 ・よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたり、顔や手指がピクピク動いたりする。 ・舌の前後の運動で、ミルクをよく飲むようになる。 ・手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。 ・首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる。 ・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・引き起こしに頭が少しずつついてくるようになる。 ・仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合わせるなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる。 ・手と手、手と口の協応ができ始める。 ・周囲の動くものを目で追う。

<援助のポイント>

- ・保育者の愛情豊かな受容によって、情緒が安定していく。担当の保育者を決めて、愛着関係を育むとともに、一人一人の生活リズムに合わせて生理的要求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。
- ・温度変化に弱く、体温の失調（発熱、低体温）や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、湿度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・病気に対する防衛機能が未発達なので衛生面に留意し、体調の小さな変化に気付くようにする。
- ・一人一人の授乳時間や間隔を把握し、おおむね3時間ごとを目安に授乳する。
- ・自分で寝返りをするようになるまでは、仰向けで寝かせ、睡眠中の窒息、突然死などの事故予防をしっかりと行う。
- ・2か月頃から腹ばい姿勢にして過ごす時期が始まる。腹ばいや寝返りの始まる時期は、特に危険なため、目を離さないようにし、下は硬い状態にする。

<家庭との連携>

- ・連絡帳のやり取りやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。
- ・家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排せつ、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。
- ・ミルクの量や授乳にかかる時間は個人差が大きいため、個々に合わせて哺乳びんの乳首のサイズなどを、保護者と確認していく。

0歳児の発達（3か月頃～6か月頃）

学 び の 芽 生 え	思 考 言 葉 創 造	<ul style="list-style-type: none"> ・唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。
人 と の か か わ り	協 同 信 頼 規 範	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。 ・初期の人見知りが始まる。 ・自分から相手にはほほえみかけるようになる。 ・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基 本 的 な 生 活 習 慣 運 動	<ul style="list-style-type: none"> ・胃の入口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。 ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。 ・よだれが出始める。 ・果汁やスープなどの準備食を開始する。 (目安は、授乳リズムが3時間半～4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃) ・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。 ・眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別が付き始めてリズムが定まってくる。 ・体温調節は安定し始めるが、まだ、周りの温度の影響を受けやすい。 ・腹ばいになると肘で上半身を支えることから、徐々に上体を持ち上げるようになる。 ・目と手の協応が始まり、見たものに手を伸ばすようになる。 ・体の正中線上で両手を絡ませる。 ・親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる。 ・足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。 ・引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せるようになる。

<援助のポイント>

- ・必要に応じてクッションなどを用意して、腹ばいや一人座りを援助していく。
- ・着替えや沐浴、おむつ交換などで身体の健康を保ち、「快」の感覚を育てる。
- ・なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使う物は個別にし、使ったらその都度、清潔にしておく。
- ・個人差に応じて睡眠がとれるように環境を整える。
- ・優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子供の情緒の安定や人との心地よいかかわり、周囲への関心を育てていく。

<家庭との連携>

- ・昼は起きて明るい所で生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。
- ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子供の手の届くところに危険な物は置かない、子供は大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きているときには応答的にかかわる、準備食の内容やタイミングなど）を知らせ、保護者が安心して子供の動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。

0歳児の発達（6か月頃～9か月頃）

学 び の 芽 生 え	思 考 言 葉 創 造	<ul style="list-style-type: none"> ・物を落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。 ・名前を呼ばれると振り向く。 ・引出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ。 ・言われていることをだんだんと理解できるようになってくる。 ・「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。 ・大人の口元を見てまねる。 ・戸外に出ることを喜ぶ。 ・機嫌がよいと一人遊びをする。 ・曲に合わせて体を動かす。 ・周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする。
人 と の か か わ り	協 同 信 頼 規 範	<ul style="list-style-type: none"> ・人のまねが上手になってくる。 ・同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。 ・知っている人を見ると抱いてもらいたがる。 ・いやいや、バイバイなどの動作をする。 ・要求があると声を上げる。 ・人見知りをしたり後追いをしたりする。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 ・名前を呼ばれると応じる様子がある。 ・人の動きを目で追う様子がある。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基 本 的 な 生 活 習 慣 運 動	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が手を添えるとコップを持って飲む。 ・椅子に座って食べる。 ・前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。 ・午前と午後、大体同じ時間に寝起きをするようになる。 ・背中を反らして手足を上げる。（グライダーポーズ） ・うつ伏せの状態で爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する。（ピボットターン） ・寝返り、はいはい、お座り、つかまり立ちなど活発に動くようになる。 ・支えて立たせると足を踏ん張る。 ・指先で物をつまんだり、手を打ち合わせたりする。

＜援助のポイント＞

- ・安全で活動しやすい環境の中で、はう、つかまり立ちをする、座るなどを十分にできるようにする。
- ・食事に対する意欲が徐々に見られるようになってくるので、手に持てる物は持たせるようにする。また、保育者が先回りをせず、食べたい物への指差しなど子供からの要求を待ち、子供の意思や意欲が高まるようにしていく。
- ・触ったものを口に運ぶ時期なので、安全と衛生に留意しながら、十分な探索活動ができる環境を整える。
- ・遊びや生活を通して具体的に身の回りの物の名前、動作などを語り掛けていく。
- ・人見知りや後追いをする時期である。子供が不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて子供が安心感をもてるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・ピボットターンの際、爪先で蹴るという行動をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になる。また、衛生、安全面に気を付け、子供が十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食を進めるに当たり、家庭でもアレルギー反応などがないか確認してもらい、連携を取り合う。
- ・母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。

0歳児の発達（9か月頃～12か月頃）

学 び の 芽 生 え	<p style="text-align: center;">思考</p> <p style="text-align: center;">言葉</p> <p style="text-align: center;">創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いないいないばあ」をして、見えなくなった大人が出てくるのを期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。 ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 ・要求したり援助を求めたりするときに、周りの関心を引こうとして発語する。 ・容器に物を入れる、かぶせる、載せる、合わせるなどをするようになる。 ・自他を区別できるようになってくる。 ・物を布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・クレヨンを持って左右の往復運動をし、なぐり描きが出始める。
人 と の か か わ り	<p style="text-align: center;">協同</p> <p style="text-align: center;">信頼</p> <p style="text-align: center;">規範</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする。 ・相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする。 ・物を打ち合わせたり積んだりする。 ・他の子供が持っている物に手を出したり、相手に物を渡したりする。 ・いやいやをしたりバイバイをしたりする。 ・褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・大人の言葉のほとんどを理解し、要求された行動をしようとする。
生 活 習 慣 ・ 運 動	<p style="text-align: center;">基本的な生活習慣</p> <p style="text-align: center;">運動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみで食べようとする。 ・コップを両手で持って飲む。 ・大人がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたりする。 ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的に物を投げたり置いたりする。 ・両手で物を持ち、手渡す。 ・はいはいや高ばいで階段の上り下りをする。 ・はいはいからお座りが自由にできるようになってくる。 ・臥位、座位、つかまり立ち、伝い歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。

<援助のポイント>

- ・手、指、足腰を使って探索活動を十分にできるようにする。
- ・自分の意思をもち始め自分でやりたがる時期なので、子供の主張をある程度かなえてから、大人の意図する方向に気持ちを向けていくようにする。
- ・保育者が子供の発見を言葉にしたり、物を媒介としたやり取りを行ったりする中で、子供のできた喜びと一緒に感じ、表情や言葉で伝える。
- ・散歩に出掛け、自然や生き物に触れて楽しむ機会を多くもち、子供の関心を広げていく。

<家庭との連携>

- ・つかまり立ちや伝い歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意する。
- ・そしゃく能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど、具体的な方法を知らせる。
- ・はいはいが十分ではない子供には歩かせることを急がず、はいはいの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。
- ・動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。

1歳児の発達（1歳頃～1歳3か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2個の積木を積む、小さい物を拾って穴に入れるなど、目と手を協応させた細かい動きができるようになってくる。 ・ 小さな虫を見付けると触ってみようとする。 ・ 玉通し、型落としができるようになってくる。 ・ 物を出したり、入れたりすることを喜ぶ。 ・ 簡単な言葉と動作が結び付くようになる。 ・ 音楽に合わせて体を動かす。
人 と の か か わ り	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物を介しての保育者とのやりとりを、保育者の反応を楽しみながら、何度も繰り返す。 ・ いつも一緒にいてくれる保育者に甘えたり、思い通りにならないと泣いて助けを求めたりする。 ・ 保育者のすることに興味をもったり、まねをしようとしたりする。 ・ ほしい物があると、「ちょうだい」としぐさや言葉で伝えようとする。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼寝は1日1回となる。 ・ 完了食になる。 ・ スプーンを持って自分で食べようとする。 ・ こぼすことも多いがコップを持って飲めるようになる。 ・ 衣類の着替えのとき、手足を入れようとする。 ・ つかまり立ち、伝い歩き、はいはいで階段の上り下りをする。 ・ 一人で立てるようになり、何度も繰り返す。 ・ 自分で1歩を踏み出してみたり、両手を上げて2、3歩歩いたりする。 ・ 箱車を押して歩く。 ・ 手の指が細かく動くようになり、親指と人差し指でつまめるようになる。 ・ おもちゃのラッパを吹いて音を出すなど、吹く力が付いてくる。

<援助のポイント>

- ・ 空腹を感じて食事をしたり、眠くなって昼寝をしたりするなど、欲求が満たされて満足することの実感を重ねられるように、子供一人一人の状態を把握して対応する。
- ・ 一人遊びがじっくりと楽しめるような空間や玩具を用意しておく。
- ・ 言葉や動作を子供が模倣しやすいようにゆっくりと大きく表すようにし、子供の言葉に丁寧に対応していく。
- ・ ままごとなど、簡単な言葉や動作のやりとりののできる遊びを、十分に取り入れていく。

<家庭との連携>

- ・ 伝い歩きや一人歩きをし始めるので、転倒に気を付けながら、動く楽しさや探索する楽しさを十分に味わうことの大切さを伝える。
- ・ 離乳食への移行の際は、卵など初めて食べる食材は家庭で試してもらって状況を伝えてもらうとともに、そしゃくや飲み込みの状態を確認しながら完了食へ移行していく。
- ・ 空腹を感じて催促するなど欲求を表すことの大切さを伝え、大人が先回りしすぎずに待ち、子供が自分の意思を表す機会を大事にしてもらえるようにする。
- ・ 睡眠時間や食事の時間、食べた量などを家庭と連絡し合い、安定したリズムで生活できるようにしていく。

1歳児の発達（1歳3か月頃～1歳6か月頃）

学 び の 芽 生 え	思 考 言 葉 創 造	<ul style="list-style-type: none"> ・障害物をよけて回り込んだり方向転換したりして、行きたい場所に行くことができる。 ・歩行が安定し、行動範囲とともに興味が広がり、探索活動が盛んになる。 ・ティッシュペーパーの箱の中に入っているものを全部出すことを楽しむ。 ・積木を3個以上積む。 ・ものの名前を覚え、片言が盛んになる。 ・自分の名前や保育者の名前が分かってくる。 ・たくさんの絵の中から「うさぎ」「リンゴ」など聞かれたものを探し、見付け出す。 ・お気に入りの絵本やお気に入りのページを何度も読んでほしがる。 ・保育者のまねをしながら、よく聞く歌と一緒に歌う。 ・歌に合わせて手をたたいたり、太鼓や鈴など音の出る玩具を鳴らしたりする。
人 と の か か わ り	協 同 信 頼 規 範	<ul style="list-style-type: none"> ・人形をトントンとしながら寝かせる、おんぶをする、食べさせるまねをするなどして遊ぶ。 ・ままごとをして食べるまねをしたり、保育者に食べさせようとしたりする。 ・保育者と一緒に触れ合い遊びをすることを喜ぶ。 ・自分の要求を簡単な言葉や指差し、しぐさなどで伝えようとする。 ・自分の思い通りにならなかつたり、自分のほしい玩具を他の子供が使っていたりしたときにかみついたり、ひっかいたりすることがある。 ・いけないことをして注意をされると、泣いたり、しょんぼりしたりする。 ・泣いている子供がいると顔をのぞき込んだり頭をなでたりする。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基 本 的 な 生 活 習 慣 運 動	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを持って自分で食べようとする。 ・好きな食べ物、嫌いな食べ物が出てくる。 ・両手でコップを持ち、ほとんどこぼさずに飲む。 ・おむつではあるが、排せつした後で動作や表情で知らせることがある。 ・衣類の着替えのとき、ボタンを外してもらおうと自分で脱ごうとする。 ・歩行が安定し、歩くことが楽しくなる。 ・後ずさりで歩く。 ・ソファなど少し高い所によじ登る。 ・階段を手すりにつかまって足踏み式で上る。 ・滑り台をよじ登ってうつ伏せですべる。

<援助のポイント>

- ・保育者に自分の気持ちを安心して表し、受け止められる心地よさを感じられるようにする。
- ・子供が自由に探索活動を楽しめるようにし、一人一人の欲求が十分に満足できるようにする。また、戸外では、土、砂、石、水、木の葉や虫等の自然物に触れ、諸感覚を十分に働かせる経験を重ねていく。
- ・押す、引っ張る、転がすなどの全身運動や、つまむ、ちぎる、たたく、握るなど手を使う遊びを十分に経験させていく。

<家庭との連携>

- ・行動範囲の広がりとともに探索活動が盛んになる時期であることやその意味を伝え、安全には十分に配慮しながら子供の興味や関心を見守り、子供の発見に共感していくことの大切さを伝えていく。
- ・子供と一緒に楽しく食事をする中で、興味をもたせたり食べ方を見せたりすることの大切さを知らせる。その際、家庭や子供の状況に応じて無理なく進められるよう、支えていく。

1歳児の発達（1歳6か月頃～1歳9か月頃）

学 び の 芽 生 え	<p>思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積木を自動車や電車に見立てて遊ぶ。 ・カップに砂を入れたり出したりして遊ぶ。 ・発語が盛んになる。 <p>言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の言葉を聞いてところどころ繰り返したり、言葉の語尾をまねたりする。 ・保育者の簡単な言葉掛けや指示が分かるようになる。 <p>創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フックに物を掛けたり外したりする。 ・自分の手に合った容器のふたの開閉をしようとする。 ・絵本のページを一枚ずつめくる。 ・粘土をちぎったり丸めたりする。 ・左右に大きく手を動かし、線を描いたり紙いっぱいぐるぐると描いたりする。 ・水に触れることを喜ぶ。
人 と の か か わ り	<p>協同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者を相手に「どうぞ」「ありがとう」などとやり取りをする。 ・名前を呼ばれると「はい」と応える。 ・ほしいものがあると「ちょうだい」と言って保育者にもらいにくる。 ・「待っててね」と言われると、少しの間待つようになる。 <p>信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んだ後の玩具を保育者と一緒に決まった場所に片付ける。 <p>規範</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできないときは、指を差したり助けを求めたりして保育者に伝えようとする。 ・友達が同じような玩具を使っていると取り合いになることもある。 ・自分の物や友達のをよく覚えていて、区別が付くようになってくる。
生 活 習 慣 ・ 運 動	<p>基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぼしたりはするが、スプーンを使って自分で食べようとする。 ・排尿したときに、表情やしぐさで知らせたり「チーチー」と言葉で言ったりする。 ・ボールを両手で持って投げたり転がしたりして遊ぶ。 ・歩き方が速くなり、歩行での転倒が少なくなる。 ・後ずさりで歩く。 <p>運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・股のぞきができるようになる。 ・くぐったりまたいだりして遊ぶ。 ・滑り台を滑る。 ・水道の蛇口をひねる。

<援助のポイント>

- ・保育者に甘えたり、言葉やもののやり取りをしたがったりする姿を十分に受け止めて温かく応じ、安心感や信頼感をもてるようにする。
- ・周囲の物に関心を持ち、いろいろな物に触れて遊びたがる時期である。安全への対応を十分に行った上で、子供の行動をむやみに禁止せず動きや探索の体験を見守っていく。また、全身を使って遊ぶ経験ができるようにする。
- ・一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しめる場や物、時間の保障をする。

<家庭との連携>

- ・規則正しい食事と睡眠は子供の心と体の成長にとっても大切であるため、整った生活リズムで過ごしていけるよう伝えていく。
- ・おむつがぬれていないときはトイレに誘い、便器に座ってみたり排尿したりする経験を少しずつ重ねていけるように伝える。
- ・好奇心旺盛で何でもやってみたい時期なので、目を離さず、身の回りの安全に十分気を配っていくことを伝える。

1歳児の発達（1歳9か月頃～2歳頃）

学 び の 芽 生 え	<p style="text-align: center;">思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物事への興味が高まり、何でも自分でやってみようとする。 ・身の回りの物に名前が付いていることが分かってくる。 ・物を容器に集める。 ・小さな積木を積む。（8個程度） <p style="text-align: center;">言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱に興味をもち始める。（ボタン、スナップ、ファスナー、靴下等） ・大人の言ったことや言葉の調子をそのまままねようとする。 <p style="text-align: center;">創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙が増え、二語文を話すようになる。 ・保育者や友達の名前を言うようになる。 ・ぐるぐると丸を描いたり、曲がるが縦線を描こうとしたりする。
人 と の か か わ り	<p style="text-align: center;">協同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人に追いかけられるのを好み、後ろを振り返りながら喜んで逃げる。 ・子供同士で手をつないだり、つながれたりする。 <p style="text-align: center;">信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のしぐさや行動をまねて同じように楽しもうとする。 ・自我が芽生え、保育者の促しに「いや」「ダメ」と拒否をするようになる。 <p style="text-align: center;">規範</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の持ち物が分かり、帽子や靴などをその子に手渡そうとする。 ・自分の意思をはっきりと示すようになり、物の取り合いなどが生じるようになる。
生 活 習 慣 ・ 運 動	<p style="text-align: center;">基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぼしながらもスプーンを持って、自分で食べようとする。 ・1回の排せつ量が多くなる。 ・一定時間昼寝をする。 ・歩行が安定し、長い距離を喜んで歩く。 ・その場で跳ぶことができる。 <p style="text-align: center;">運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すりや横の壁につかまりながら一段ずつ、時には足を交互に出して階段を上る。 ・斜面や段差の上り下りをする。 ・しゃがんで遊ぶ。 ・ボールを蹴る。

<援助のポイント>

- ・手、足、全身の運動機能の発達を見極め、斜面や段差を上る、でこぼこ道を歩くなど個々に合った運動遊びが経験できるようにする。
- ・自分の思い通りにいかないと泣く、拒否する、かみつくなど感情的に混乱する場面が多い時期である。言葉だけで言い聞かせるよりも子供の気持ちを全面的に受容し、受け止められている安心感をもたせ、情緒の安定を図るようにする。
- ・指差しや身振り、片言で伝えようとしていることを受け止めて言葉にして返し、子供が気持ちを伝える喜びや言葉を使う楽しさを感じられるようにする。

<家庭との連携>

- ・子供の成長の表れとして拒否の言葉が多くなるが、子供自身が選んで決められるように「どうしたいの」「どっちがいいの」など大人の提案を投げ掛け、待つことも方法の一つであるなど、具体的な対応の方法を伝えていく。
- ・片言の話に応答したり会話をしたりすることが言葉の獲得や気持ちのつながりになっていくことの大切さを伝える。

2歳児の発達（2歳頃～2歳6か月頃）

<p>学 び の 芽 生 え</p>	<p>思考 言葉 創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積木や簡単なブロックなどを組み合わせたり色々な形を作り出したりして、何かに見立てて遊ぶ。 ・お気に入りの絵本を、自分で読んでいるように一人でしゃべりながら見る。 ・「かっこいい」「きれいね」など感じたことを言葉で表すようになる。 ・「おはよう」「さようなら」など生活に必要な挨拶をするようになる。 ・鉛筆やクレヨンでぐるぐると曲線を描く。 ・好きな歌を覚えて歌う。 ・保育士や友達と簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・保育士がリズムに合わせて踊っていると手をたたき、リズムにのって手足を動かすなど一緒に楽しむ。 ・自分のイメージでままごと遊びを楽しんだり、大人のもりになって人形やぬいぐるみを抱っこしたりする。
<p>人 と の か か わ り</p>	<p>協同 信頼 規範</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・追いかけたり追いかけられたりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・いつも一緒に遊んでいる友達のことを名前と呼ぶ。 ・自分のしたいことやしてほしいこと、伝えたいことを言葉で表現するようになる。 ・自分本位の行動が目立ち、思い通りにならないときはかんしゃくを起こしたり頑固な行動をとったりする。 ・身の回りのことを「自分で」と言ってやりたがる。 ・決められた所へ物を出したり入れたりする。
<p>生 活 習 慣 ・ 運 動</p>	<p>基本的な 生活習慣 運動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみが少なくなり、スプーンを使って食事ができるようになる。 ・排せつを言葉やしぐさで知らせたり、促されて便器で排せつしたりする。 ・ボールを使い、投げる、蹴る、追うなどの遊びができるようになる。 ・走る、跳ぶなどの運動機能が伸びる。 ・階段を何にもつかまらずに、段ごとに両足をそろえて上り下りする。 ・運動遊具を使って登る、すべる、跳ぶなどを繰り返し楽しむ。 ・三輪車に乗り、両足で地面を蹴って進む。 ・指先を使う遊びに興味をもってやりたがる。(ひも通し、洗濯ばさみで挟む、粘土や紙を丸めるなど) ・リズムに乗って体を動かし、踊ったり体操をしたりする。

<援助のポイント>

- ・全身運動が滑らかになり、動きが大きくなってくる時期である。遊びの広がりや子供の動線を考慮しながら、遊具などを安全に配置し、体を動かすことを十分に楽しめるようにする。
- ・自分でできることが増えてきて自分で何でもやりたがるが、思い通りにできなかつたり、やらせてもらえなかつたりするとかんしゃくを起こすこともある。子供の気持ちを受け止め、そっと援助しながら、自立に向けての意欲を育てていく。できたときには「できたね」とその姿を認め、その子供なりの満足感や達成感が味わえるようにしていく。
- ・なりきって遊べるような玩具の準備や、コーナーの設定を工夫する。

<家庭との連携>

- ・二語文を話すようになり、おしゃべりが盛んになってくる。しかし、この時期は言語面でも個人差が大きく、まだあまりしゃべらない子供もいる。しゃべらなくても言葉をため込んでいる時期であるなど個人差があることを伝えながら、どのように話し掛けたり、かかわったりしたらよいかを具体的に知らせていく。
- ・かんしゃくを起こしたり、何でもいやいやと泣いたりしたときに、保護者も子供とどうかかわったらよいかと悩むことが多くなる時期である。子供の気持ちの揺れも成長の過程であることを知らせ、突き放すのではなく、子供自身が気持ちを立て直せるように代弁するなど、やさしく見守って待つことの大切さを知らせていく。

2歳児の発達（2歳6か月頃～3歳頃）

<p>学びの芽生え</p>	<p>思考 言葉 創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤、青、黄、緑などの色が分かる。 ・大きい小さい、長い短い、同じなどの区別が付き、言葉で表す。 ・形の違いが分かるようになり、簡単な絵合わせやパズルをする。 ・「これは」と何度も聞いたり、同じ絵本を「もう一回」と繰り返し読んでもらったりすることを好む。 ・おしゃべりが盛んになり、自分のことを「Aちゃん、ママと〇〇いったの」などと保育者に話す。 ・名詞の語彙が増える。 ・粘土を手のひらでぺったんと押ししたり、細くのばしたりする。 ・いろいろな物を袋に入れたり、布で包んだりする。 ・クレヨンで描きながら自分なりに「くるま」「かお」とイメージをもつようになる。
<p>人とのかかわり</p>	<p>協同 信頼 規範</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平行遊びだが、友達と一緒に少しの間遊ぶ。 ・だれかがふざけはじめると一緒になってふざける。 ・自己主張が強く、物の取り合いになることが多いが、「いいよ」と貸せることもある。 ・友達の休みや様子などを気に掛ける。 ・よいこと、いけないことが分かってくる。
<p>生活習慣・運動</p>	<p>基本的な生活習慣 運動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを持ち、使い分けて食べるようになる。 ・ほとんどこぼさずに食べられるようになる。 ・遊びに夢中になっているとおもらしをすることもあがるが、尿意を知らせてトイレで排せつするようになる。 ・男児は立ち便器での排せつができるようになる。 ・衣服の着脱に関心を持ち、脱いだ服をたたもうとしたり、自分でボタンを掛けたり外したりする。 ・三輪車やスクーターを片足で蹴ったり、三輪車をこいだりする。 ・平均台(高さ20cmくらい)を横歩きで渡ったり、30cmくらいの高さから跳び下りたりする。 ・鉄棒にぶら下がったり、ジャングルジムによじ登ったりする。

<援助のポイント>

- ・排せつの自立は個人差があるため、一人一人の排尿間隔を確認し、タイミングをみながらトイレに誘っていく。いつまでも便器に座らせておくことはせず、「おしっこ出ると教えてね」と伝え、無理なく自分でできた喜びにつなげる。
- ・身の回りの様々な物に興味や関心が広がり、やってみたい、使ってみたいという欲求が出てくる時期である。保育者の見守りの中で十分に体験できるようにしていく。

<家庭との連携>

- ・着替えも全部自分でやりたいと興味が出てくる時期である。子供が自分で着替えやすく、できたうれしさを感じられるよう、扱いやすいボタンやスナップの大きさや場所などを具体的に知らせていく。
- ・保護者が子供にやって見せたり、今後、子供の様子に合わせて教えたりするときの参考になるよう、箸やスプーンなどの段階を追った持ち方、使い方やトイレトペーパーの切り方、たたみ方、拭き方など、必要な情報を伝えていく。
- ・基本的な生活習慣を身に付けていけるよう、家庭での方針を聞きながら、その子供に応じた時期や方法を家庭と園で共に考えて、進めていく。